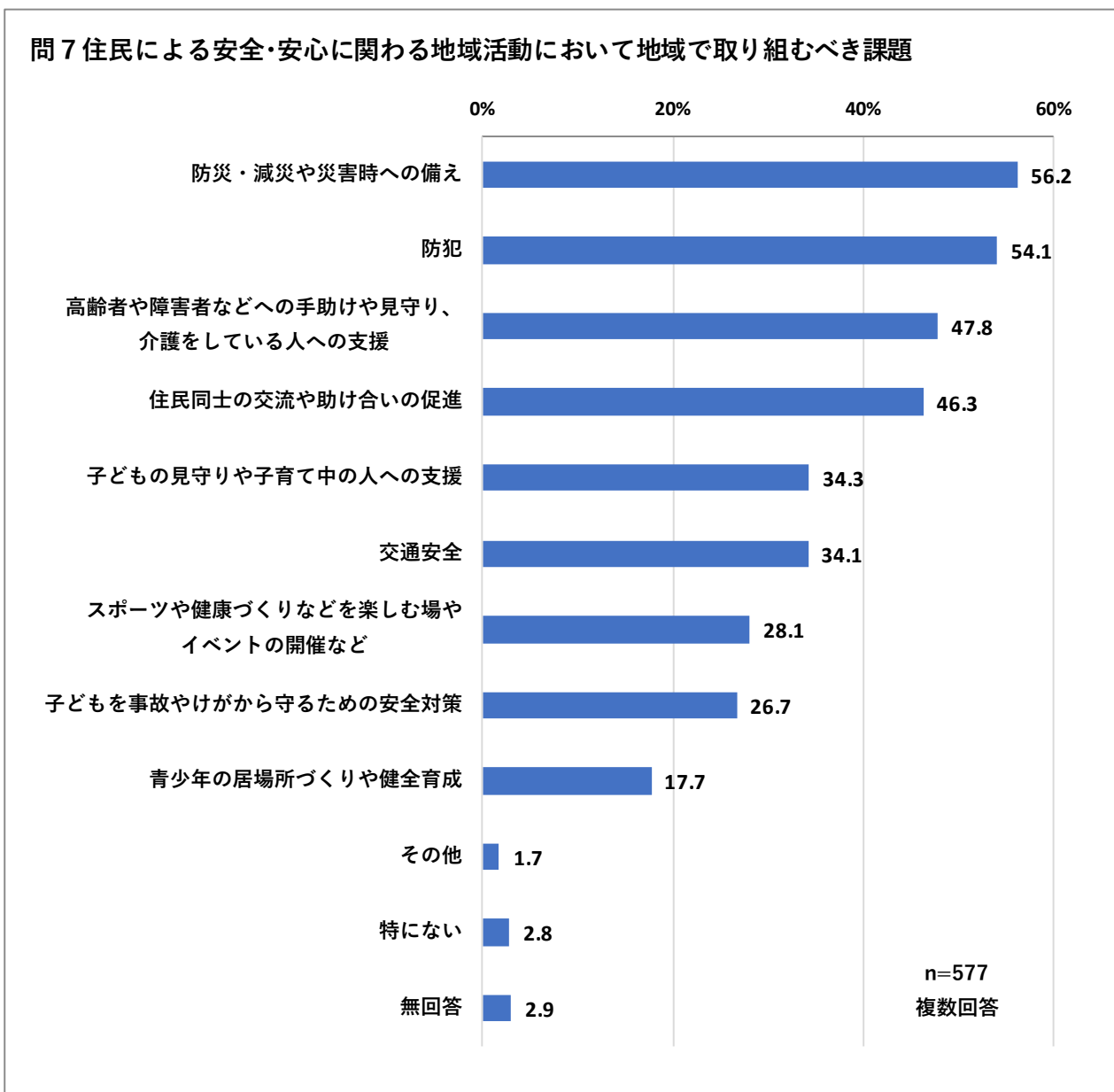


4 安全・安心に関する質問

(7) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動 【新規】

<全体>

・住民による安全・安心に関わる地域活動において地域で取り組むべき課題で最も多く挙げられたのは「防災・減災や災害時への備え」で56.2%、次いで「防犯」(54.1%)、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.8%)、「住民同士の交流や助け合いの促進」(46.3%)の順となりました。一方、「青少年の居場所づくりや健全育成」を挙げた方は2割以下となっています。



問7 住民による安全・安心に関わる地域活動において、地域で取り組むべき課題 (その他記述)【9件】		
自転車、バイクの運転マナー	2	若い親を教育すべき
日々のスポーツを楽しむ場所の解放	1	子供の健康を守ること特に受動喫煙!
介護保険の活用についてもっとアピールした方が良い		
女性の健康に関する知識の普及(特に男性に知識を持って欲しい)		
朝、夕の下校時の見守隊がいる		
詳しい事が知りませんが、いろいろ既に行なわれている		

【地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動： 属性別】上位4項目

<性別>

・「防犯」では「男性」の方が、その他の項目では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

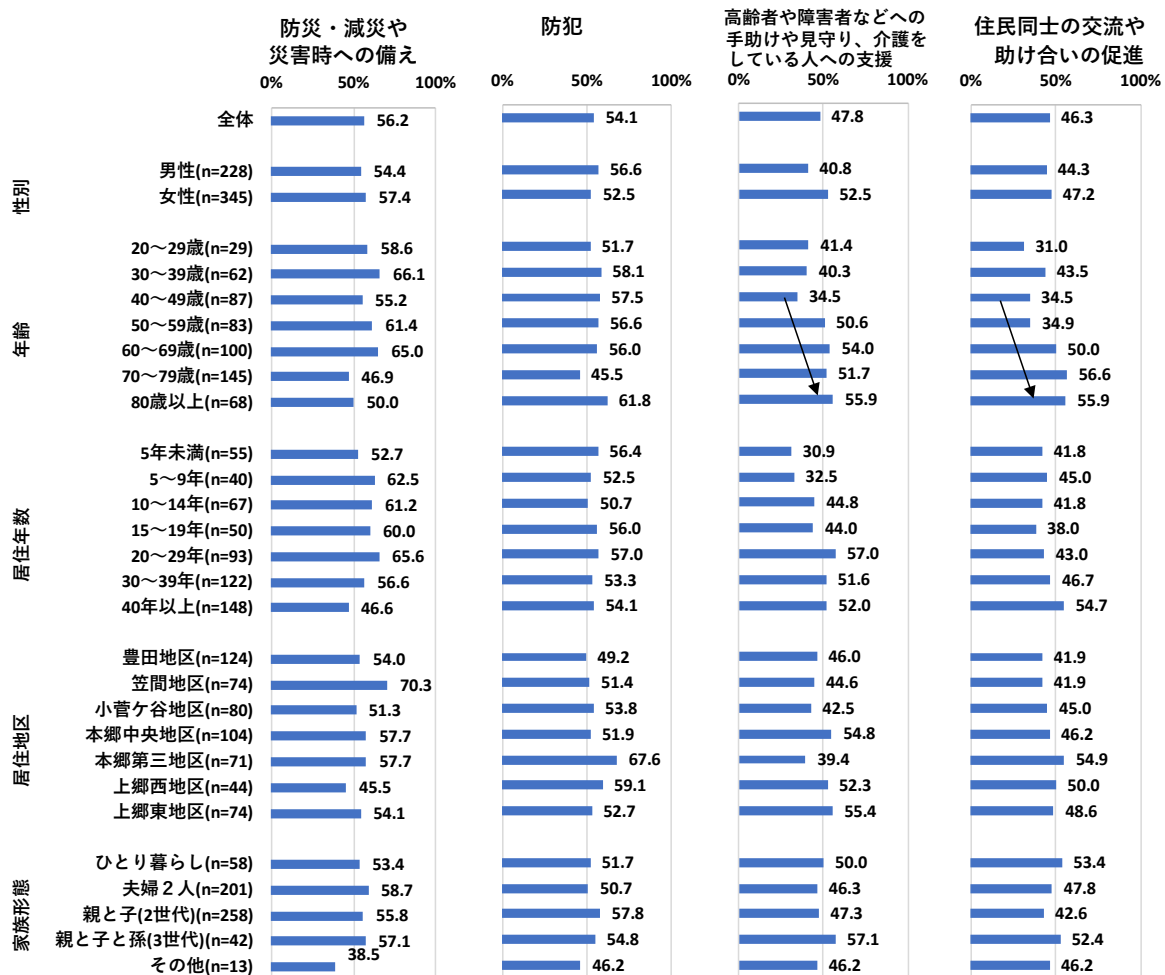
・「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」では、40歳以上では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<地区別>

・「笠間地区」で「防災・減災や災害時への備え」の割合が、「本郷第三地区」で「防犯」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」で「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



(8) 運動不足の実感

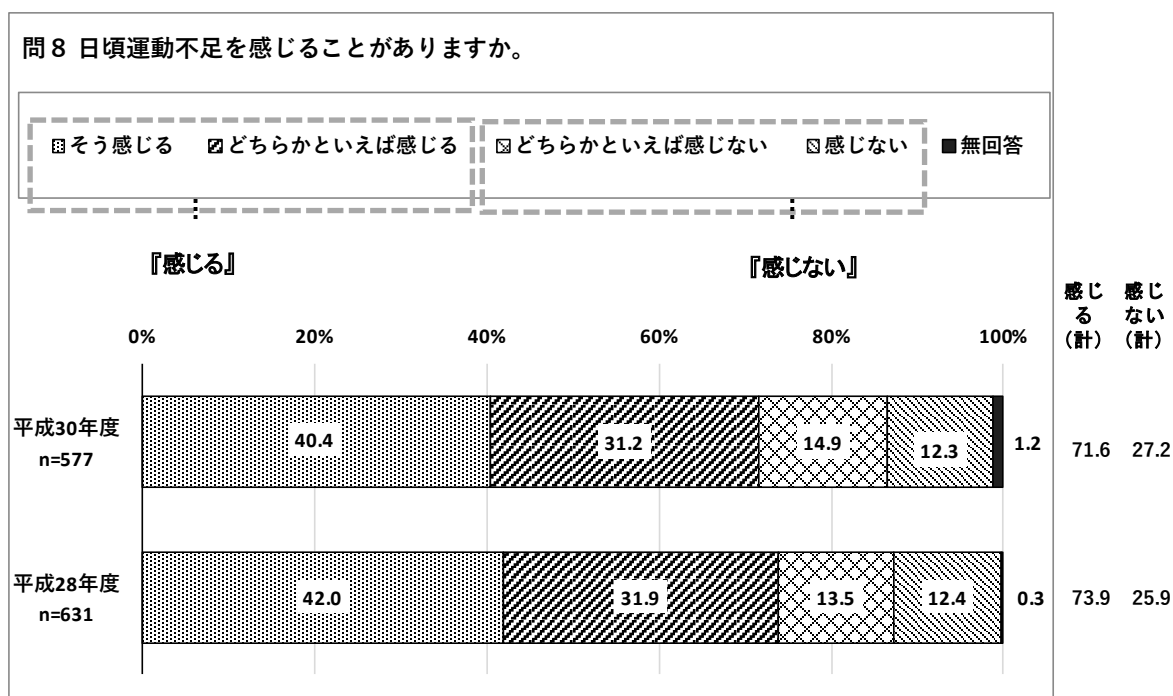
【運動不足の実感：時系列】

<全体>

- ・ 日頃運動不足を感じるかどうかについて「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『運動不足を感じる』方が71.6%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『運動不足を感じない』方が27.2%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『感じる』割合は2.3ポイント減少し、『感じない』割合は1.3ポイント増加し、日頃運動不足だと感じる区民が微減している。



【運動不足の実感： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「そう感じる」で、7.5ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では「そう感じる」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

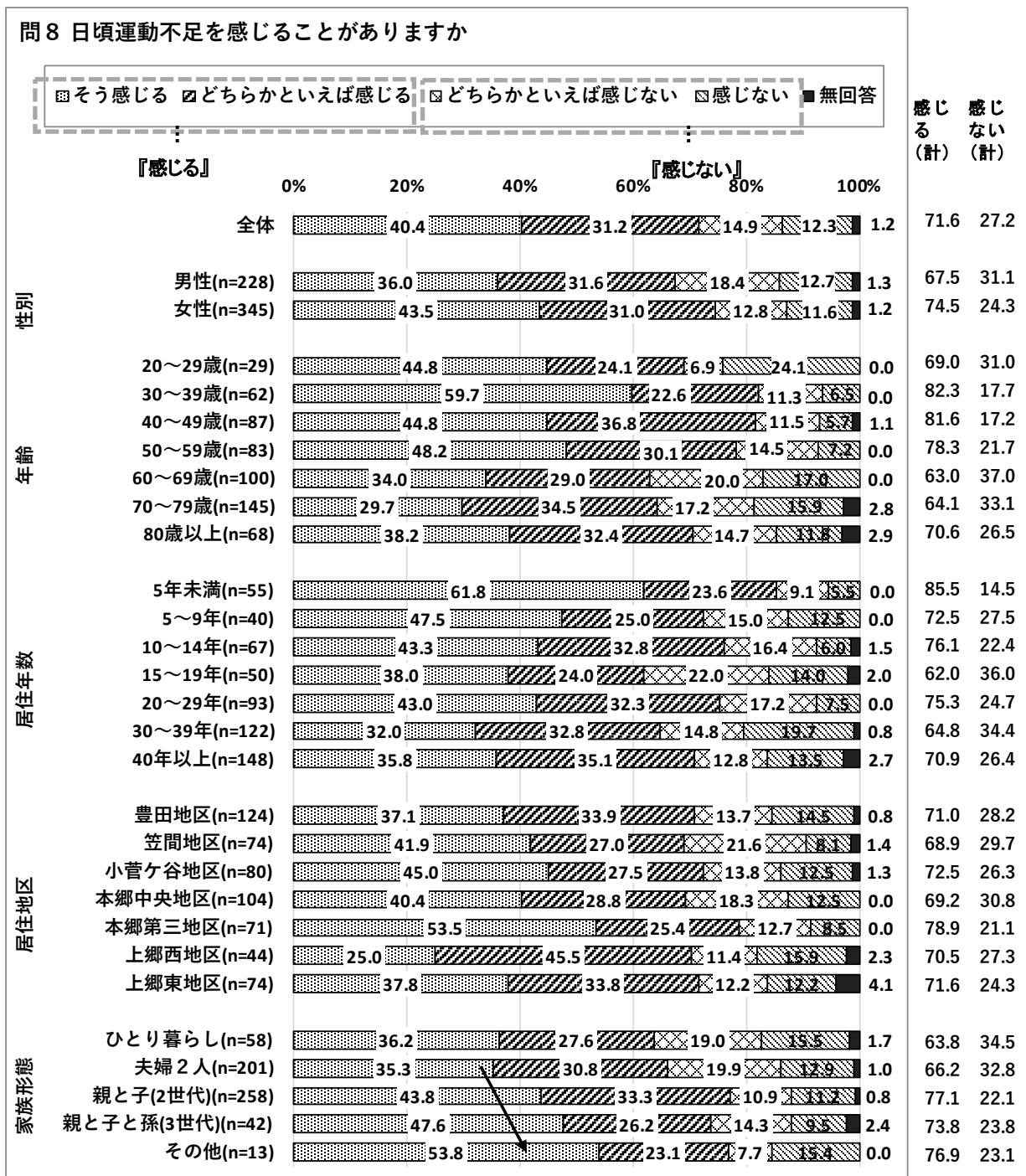
・「5年未満」では、「そう感じる」の割合が全体より20ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「そう感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。

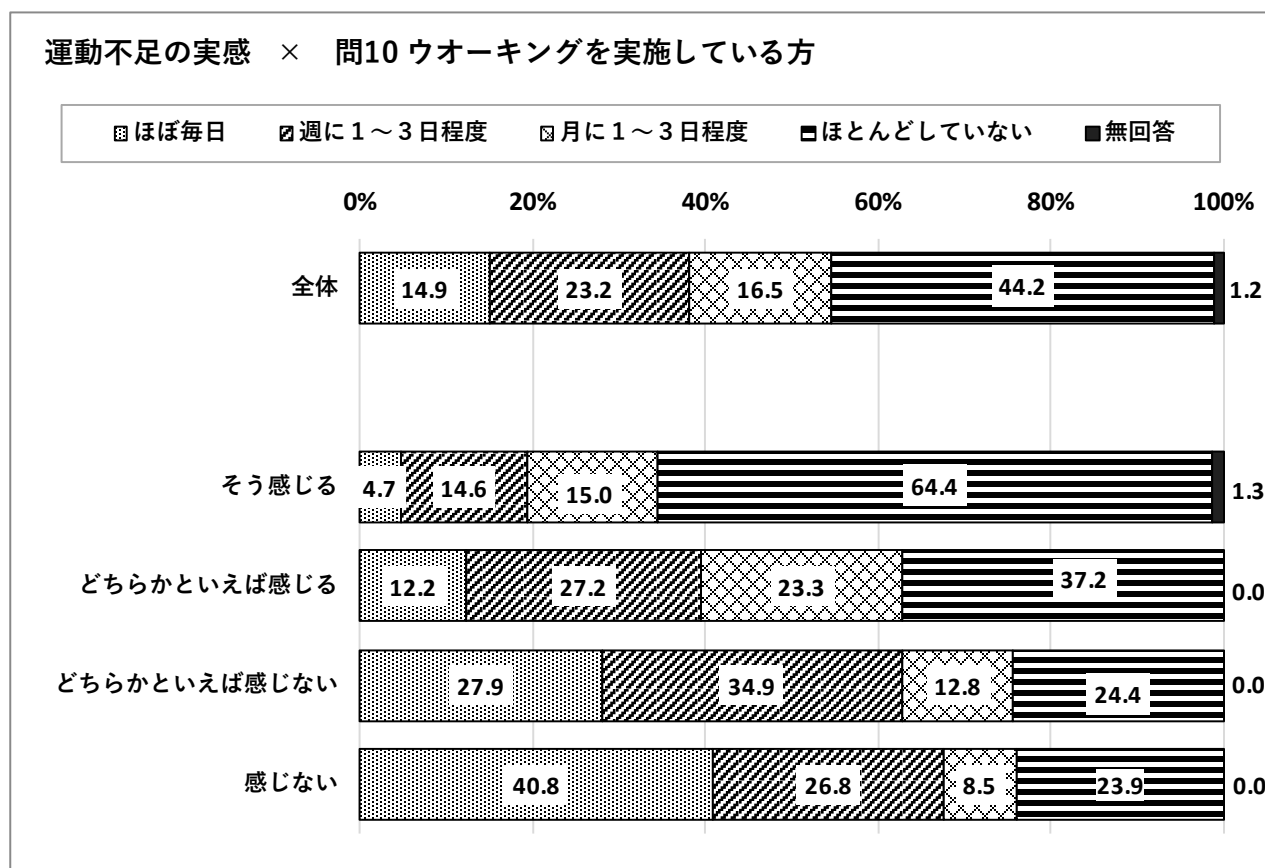
<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど「そう感じる」の割合が高くなる傾向が見られる。



【運動不足の実感： ウォーキングを実施している方別】

・運動不足を感じない人の4割は、ほぼ毎日ウォーキングをしている。



(9) スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 時系列】

<全体>

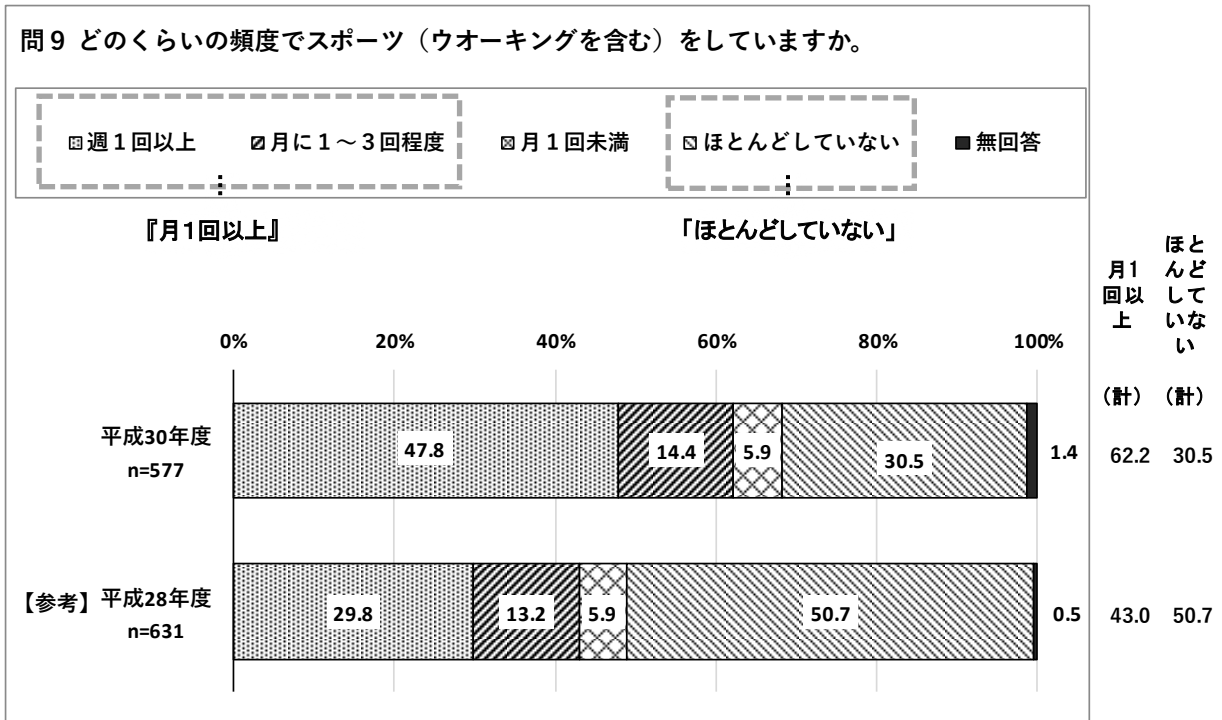
- ・ スポーツをする頻度については「週1回以上」スポーツをしている方は47.8%である。一方、「ほとんどしていない」と回答した方は30.5%である。

<参考：平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『月1回以上』割合は19.2ポイント増加し、「ほとんどしていない」割合は20.2ポイント減少し、（ウォーキングを含む）スポーツをする頻度が激増している。

※設問が異なるため、参考扱いとします。

平成28年度調査：どのくらいの頻度でスポーツをしていますか。



【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 属性別】

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、「週1回以上」で、9.4ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

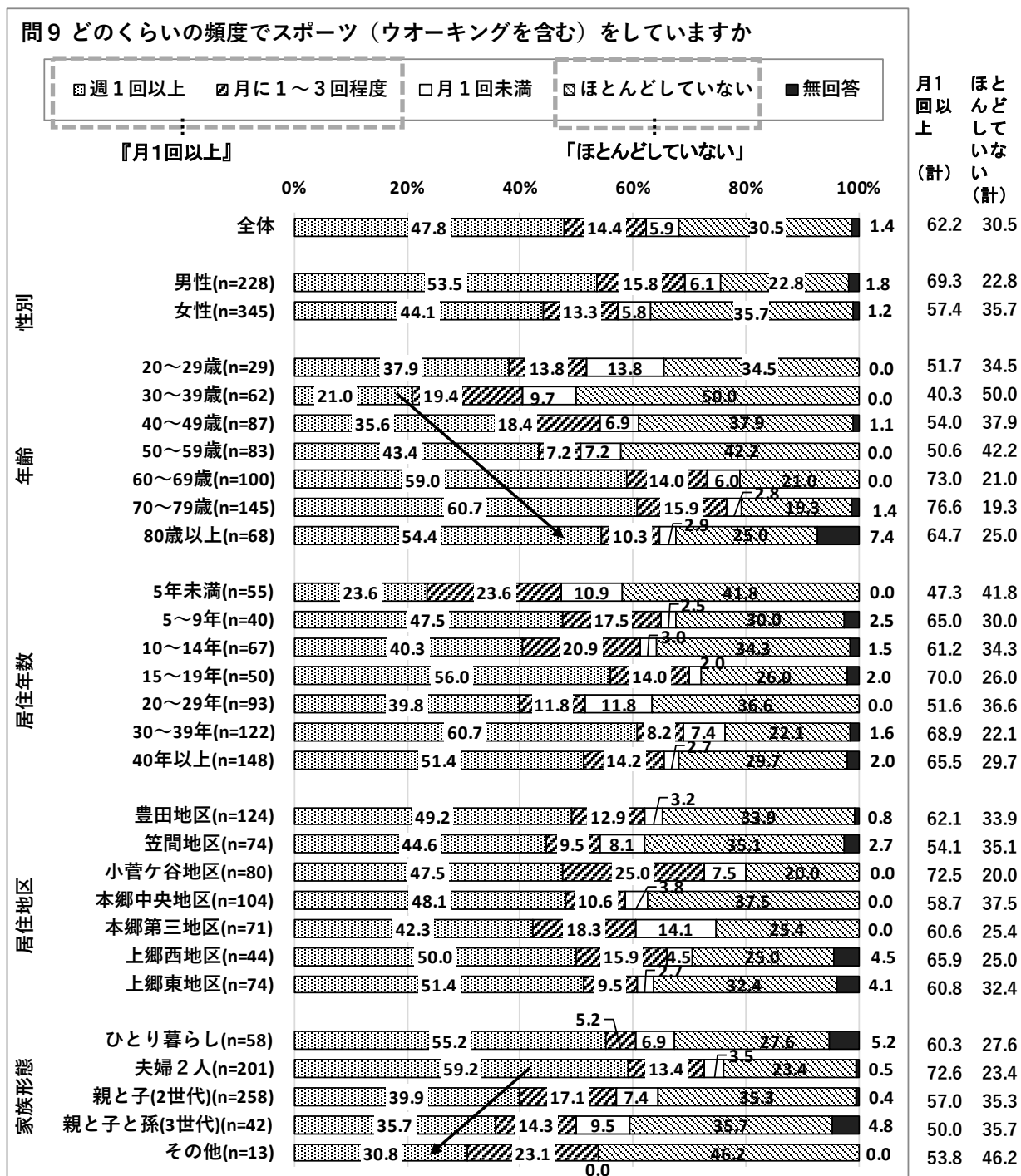
・「30～39年」では、「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」を除いて、家族の人数が多くなるほど割合が低くなる傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果

(10) ウォーキングをする頻度

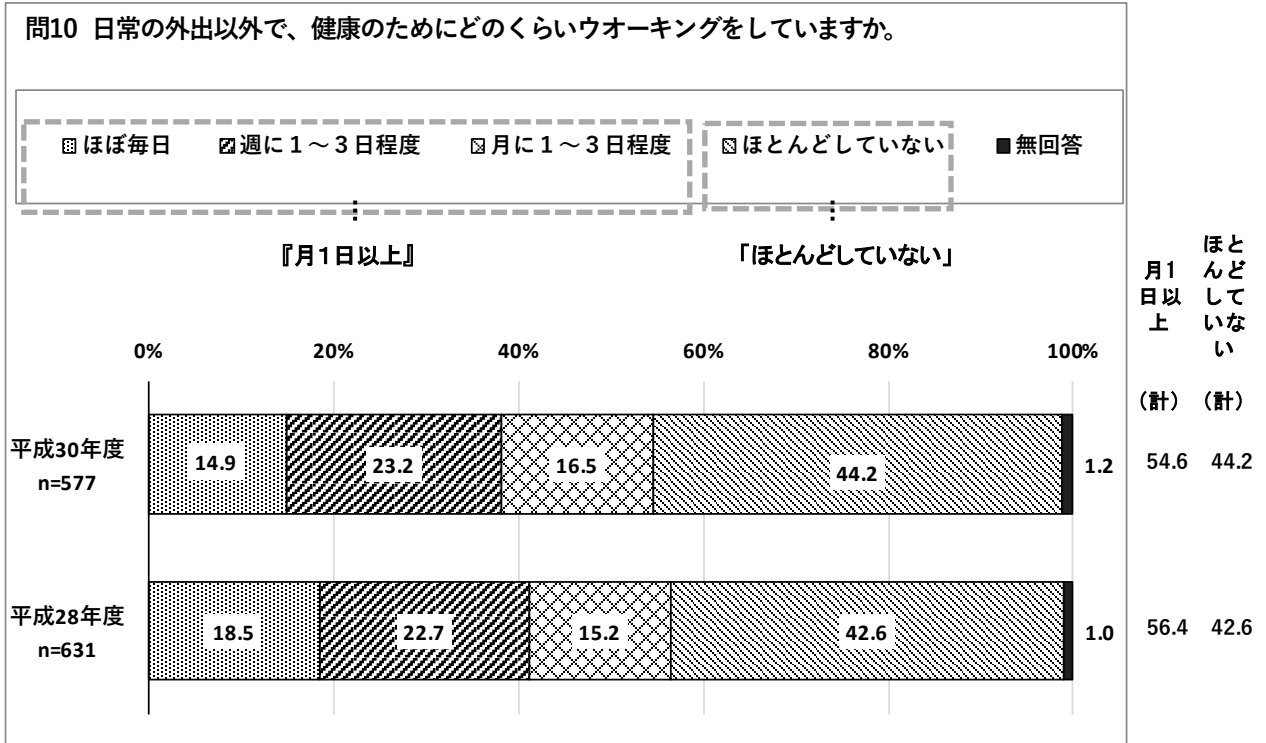
【ウォーキングをする頻度： 時系列】

<全 体>

- ・ 日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウォーキングをしているかについては、「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」「月に1～3日程度」を合わせた『月に1日以上』の方は54.6%、「ほとんどしていない」方が44.2%と5割以上の区民が月1日以上ウォーキングをしている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『月1日以上』割合は1.8ポイント減少し、「ほとんどしていない」割合は1.6ポイント増加し、ウォーキングをする区民は微減している。



【ウォーキングをする頻度： 属性別】

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、「ほぼ毎日」で、5.6ポイント高い。

<年齢別>

・70歳以上では「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高く、高齢になるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

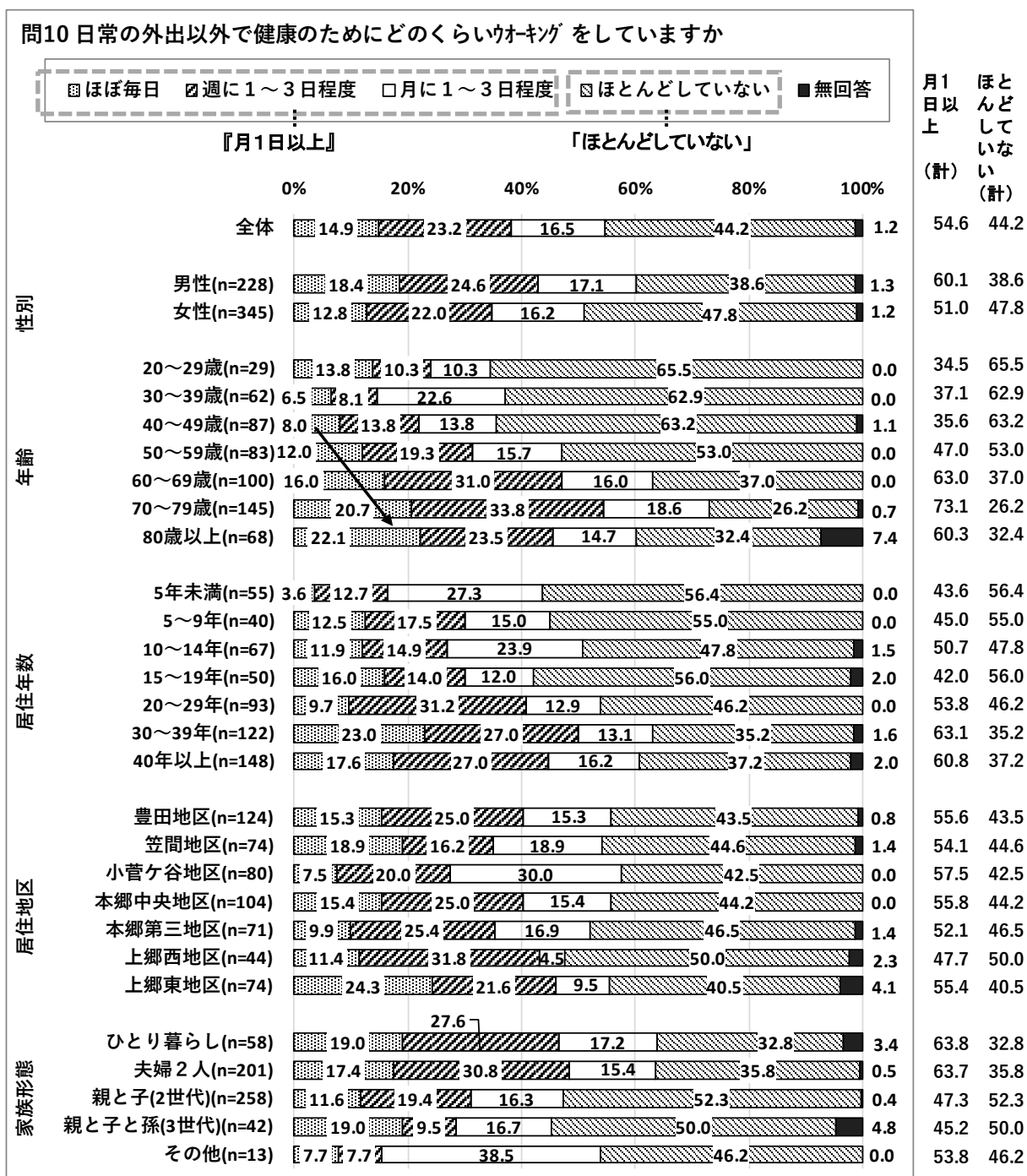
・「30～39年」では、「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント程度高い。



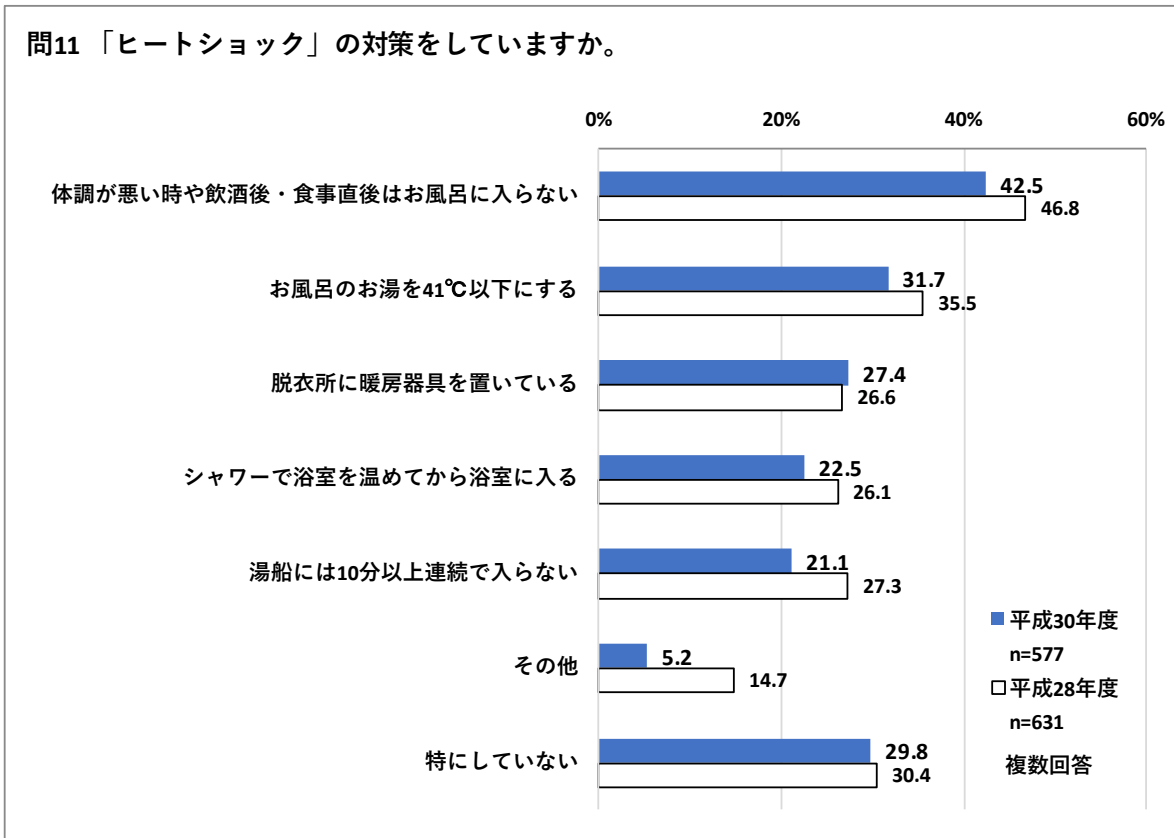
(11) 「ヒートショック」の対策

<全体>

- ・「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」が42.5%で最も多く、次いで「お風呂のお湯を41℃以下にする」(31.7%)、「脱衣所に暖房器具を置いている」(27.4%)の順である、一方、「特にしていない」は29.8%となっている。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較すると「脱衣所に暖房器具を置いている」では、微増しているが、それ以外の対策では減少傾向が見られた。



問11 「ヒートショック」の対策をしていますか (その他記述)【29件】		
浴室暖房		13
全室エアコン(浴室の温度が室温と同じ)		5
風呂に入る前にシャワーを(お湯)足元からゆっくりとかける		2
昼のあたたかい時間に入る		2
手すりをいくつもつけ安全を図っている	1	水を飲む 1
お風呂に入らずシャワーのみ	1	湯船に心臓は入れない 1
入浴直前にシャワーで浴室を暖める	1	血圧等気を付ける 1
デイサービスで入浴	1	

【「ヒートショック」の対策： 属性別 】上位4項目

<性別>

・「お風呂のお湯を41℃以下にする」では「男性」の方が、その他の項目では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

・どの項目も50歳以上で年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・どの項目も居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」で「脱衣所に暖房器具を置いている」の割合が、全体より20ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



Ⅲ 集計分析結果

(12) 救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度 【新規】

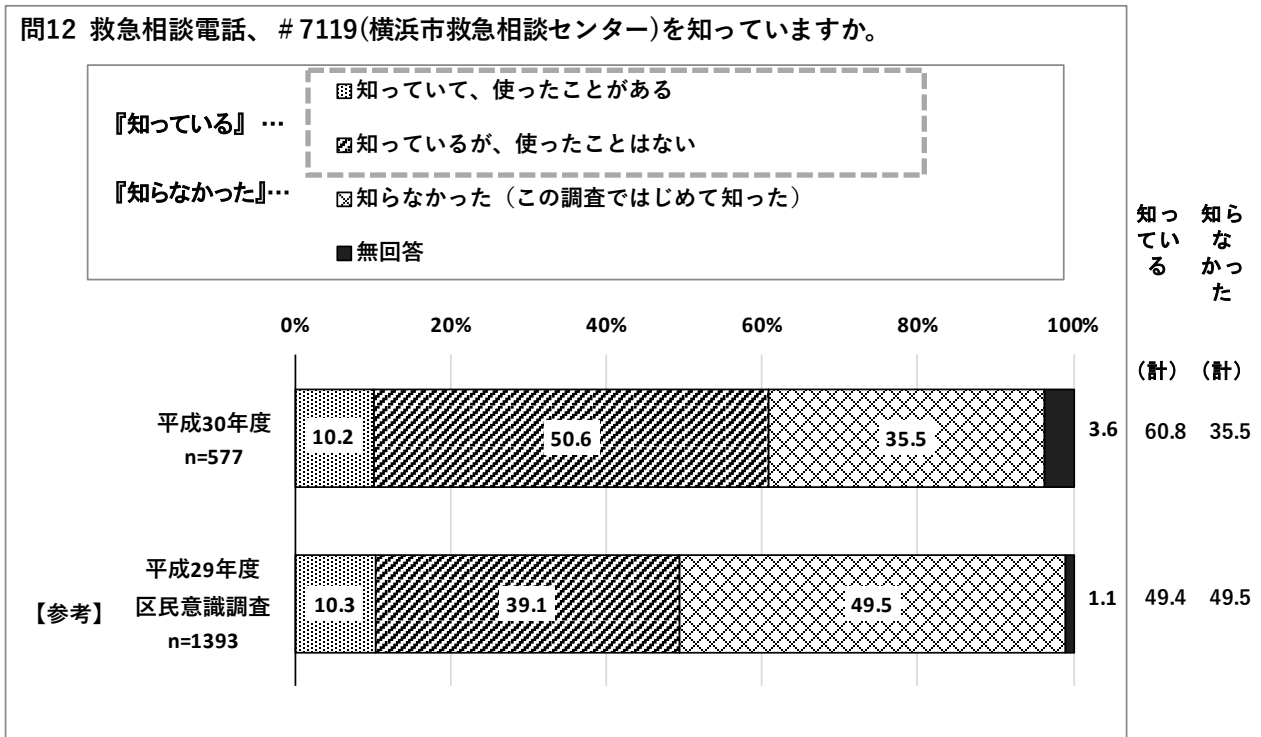
【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 時系列】

<全 体>

- ・ 「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は60.8%である。また、「使ったことがある」方は全体の1割である。一方、「知らなかった（この調査ではじめて知った）」方は35.5%となっている。

<参考：平成29年度 区民意識調査と比較>

- ・ 平成29年度区民意識調査と比較して、「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は11.4ポイント増加している。



【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 属性別】

<性別>

・「知っていて、使ったことがある」と「知っているが使ったことはない」と合わせた『知っている』を比較すると、「男性」より「女性」が17.4ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『知っている』の割合が全体より15ポイント以上低い。

<居住年数別>

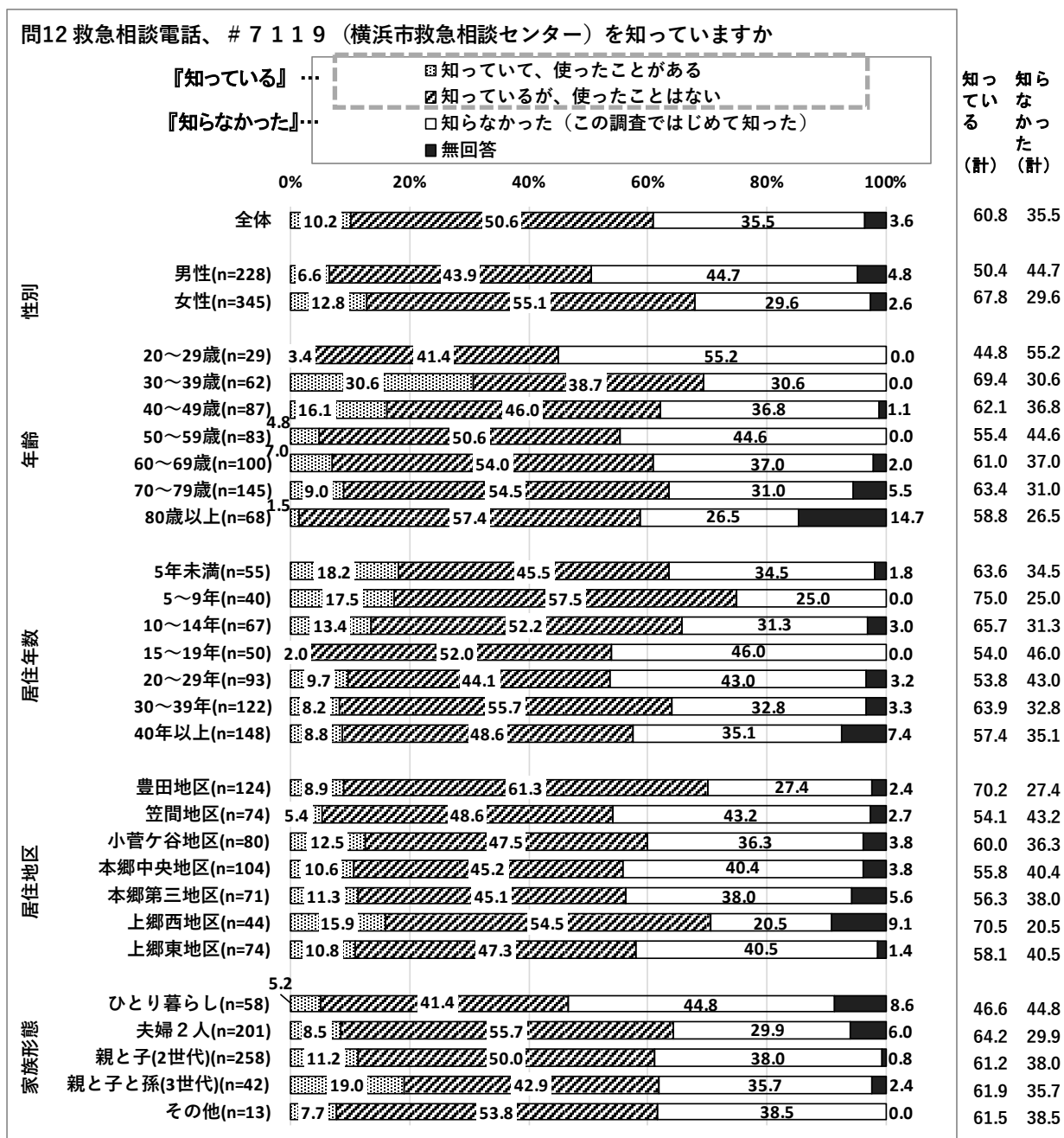
・「5～9年」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「上郷西地区」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上低い。



Ⅲ 集計分析結果

(13) 地域防災拠点の認知度

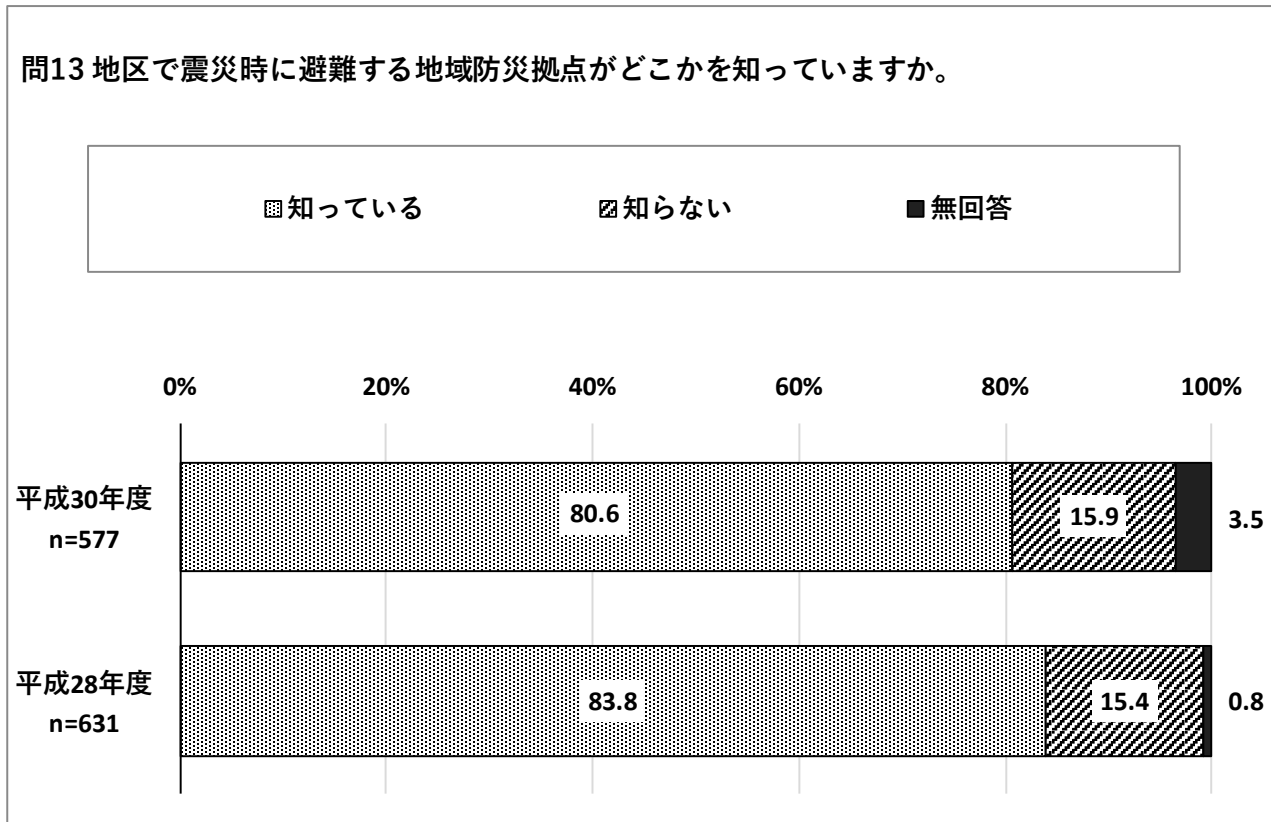
【地域防災拠点の認知度： 時系列】

<全体>

- ・ 地区で震災時に避難する地域防災拠点を「知っている」方が80.6%と、「知らない」方を大きく上回っている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、「知っている」割合は3.2ポイント微減している。



【地域防災拠点の認知度： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っている」で、2.8ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では「知っている」の割合が全体より35.8ポイント低く、年齢が上がるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

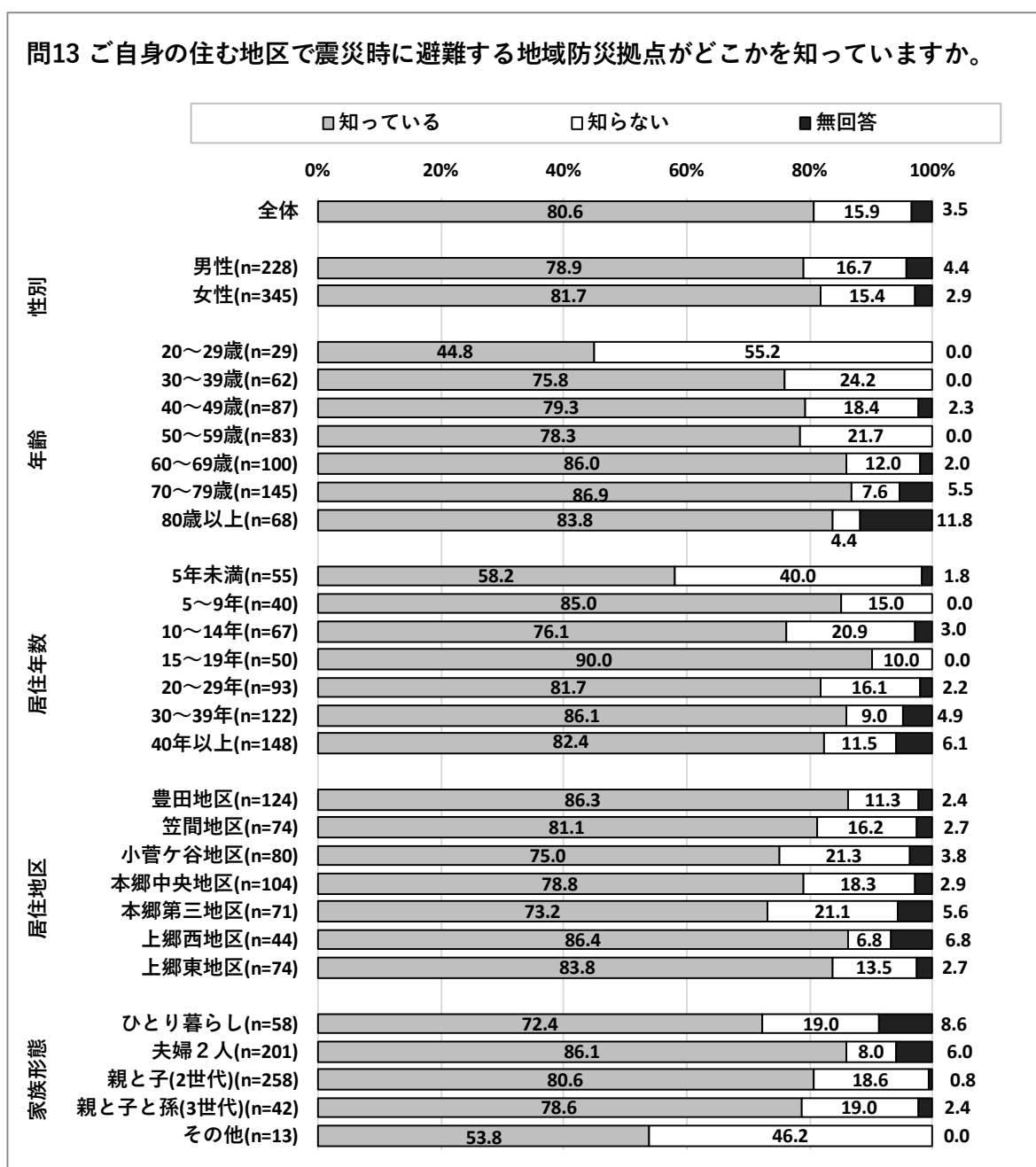
・「5年未満」では「知っている」の割合が全体より22.4ポイント低く、「15～19年」「30～39年」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「上郷西地区」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。



III 集計分析結果

(14) 地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合

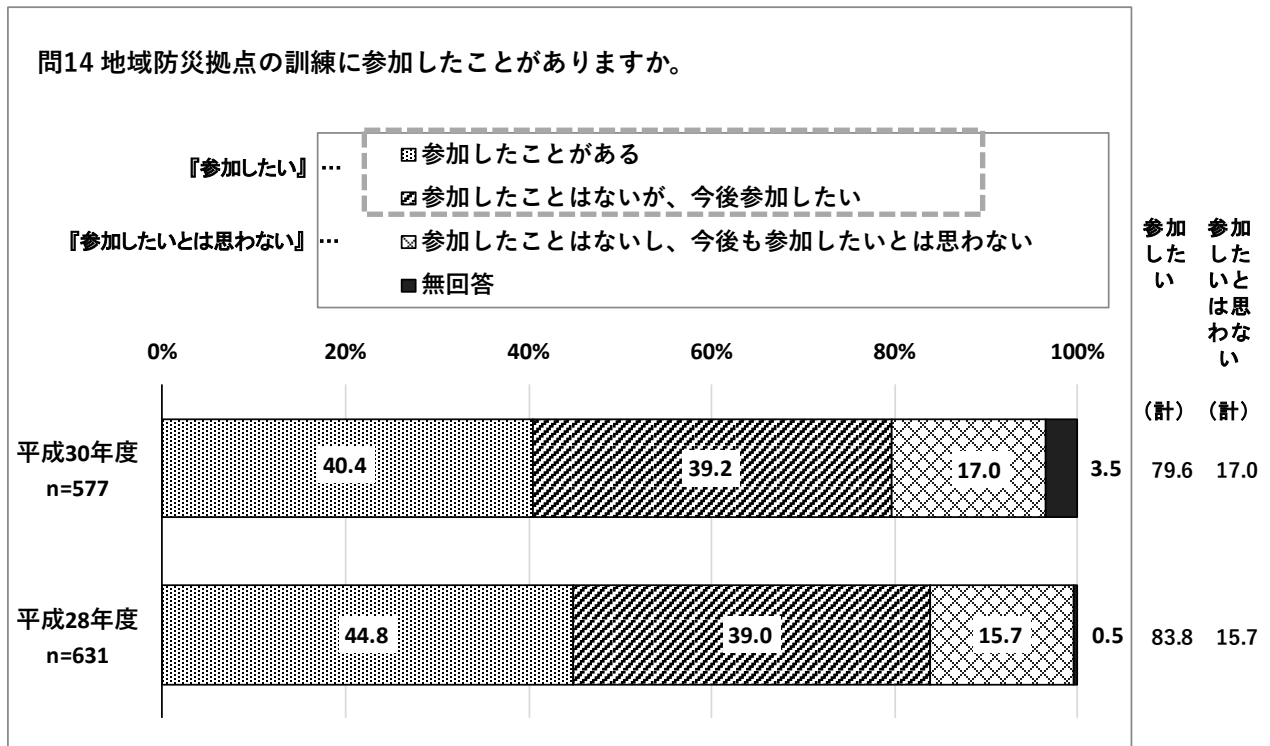
【地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合： 時系列】

<全体>

- ・「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた『参加したい』の割合は79.6%となっており、約8割の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意思がある。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較して、『参加したい』割合は4.2ポイント減少している。



【地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「参加したことがある」が9.5ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」を除いて、年齢が上がるほど「参加したことがある」の割合が高くなっている。

<居住年数別>

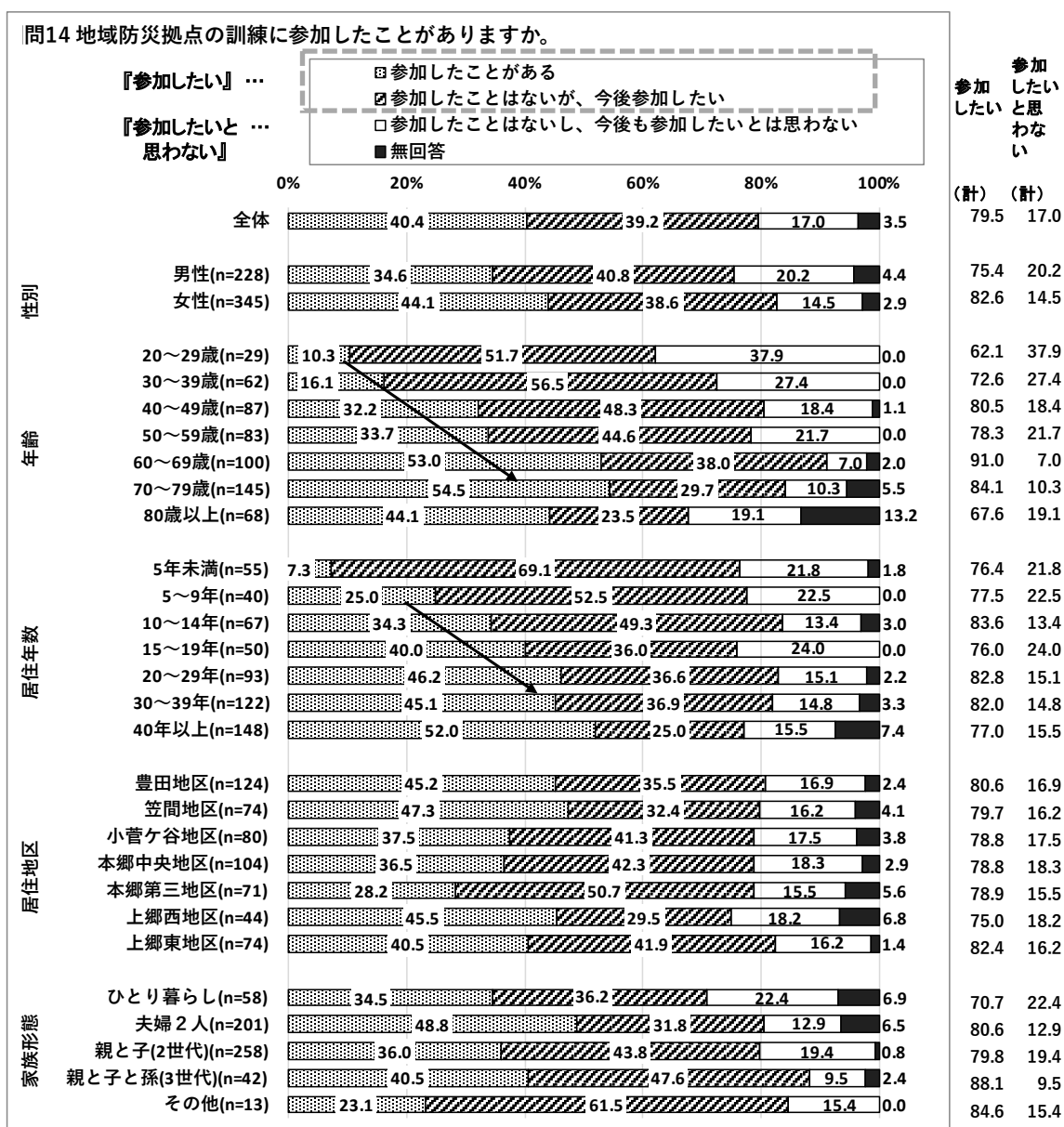
・居住年数が長くなるほど「参加したことがある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

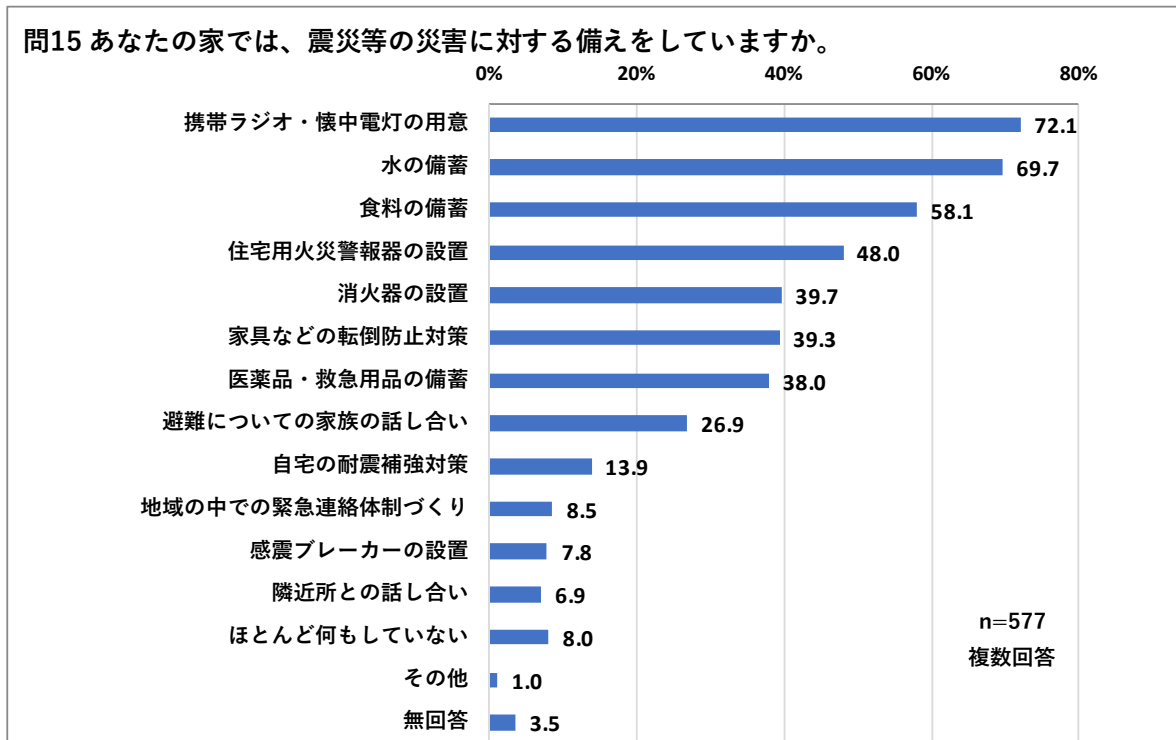
・「夫婦2人」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。



(15) 震災等の災害に対する備え

<全体>

- ・ 区民が行っている震災等の災害に対する備えについては「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が72.1%で最も多く、次いで「水の備蓄」(69.7%)、「食料の備蓄」(58.1%)、「住宅用火災警報器の設置」(48.0%)の順になっている。一方、「ほとんど何もしていない」は8.0%となっている。



問15 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか (その他記述)【6件】	
夫も殆ど動きにくく夫をつれての避難は無理ということでここで生きる備蓄をかなりしてます	1
現在マンションに居住してますので、自治会、管理組合の決め事等の指示に従ってます	1
家を建替えた	1
現在、介護施設に世話になっています	1
避難所の掲示	1
小銭 ¥1000分ぐらい	1

【震災等の災害に対する備え： 属性別】上位4項目と「ほとんど何もしていない」

<性別>

・上位4項目では「男性」より「女性」の割合が高くなっている。

<年齢別>

・上位4項目では「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど備えをする割合が高くなる傾向が見られる。一方、年齢が低いほど「ほとんど何もしていない」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

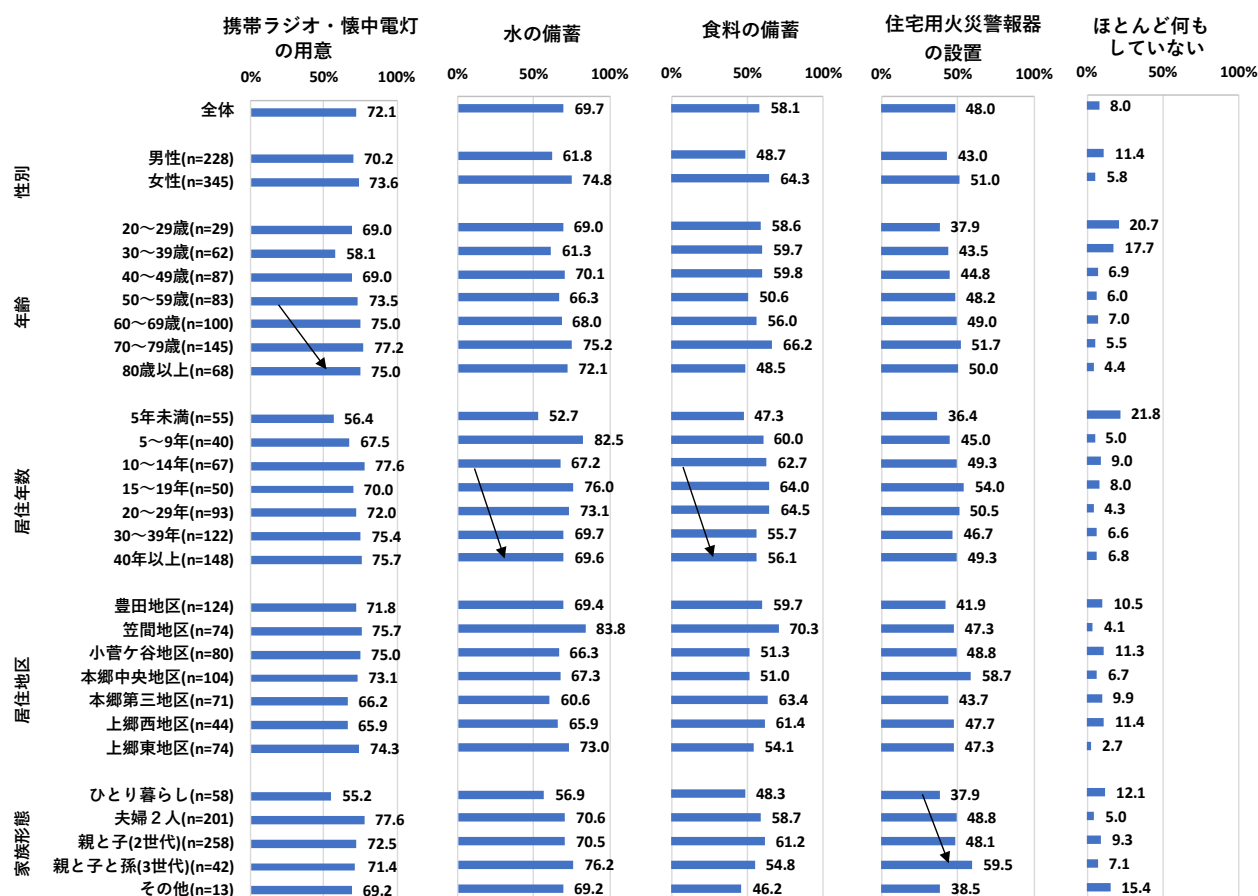
・全体的に「5年未満」では、他と比べて備えをする割合が低く、5年以降、備えをする割合が徐々に微増する傾向が見られる。
 ・「5～9年」では、「水の備蓄」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「笠間地区」で「水の備蓄」「食料の備蓄」が、「本郷中央地区」で「住宅用火災警報器の設置」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

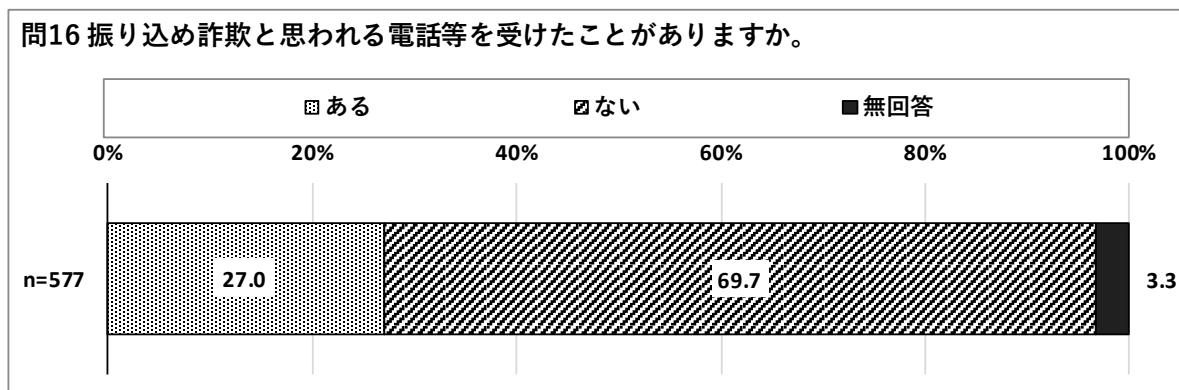
・「住宅用火災警報器の設置」は家族人数が多くなるほど割合が高くなる傾向があり、「親と子と孫（3世代）」では、全体より10ポイント以上高くなっている。



(16) 振り込め詐欺の受電経験の有無 【新規】

<全 体>

- ・ 振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある区民は27.0%になっている。



【振り込め詐欺の受電経験の有無： 属性別】

<性別>

・「ある」の割合が「男性」26.3%、「女性」27.2%と大きな違いは見られない。

<年齢別>

・70歳以上では「ある」の割合が全体より20ポイント程度高く、年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

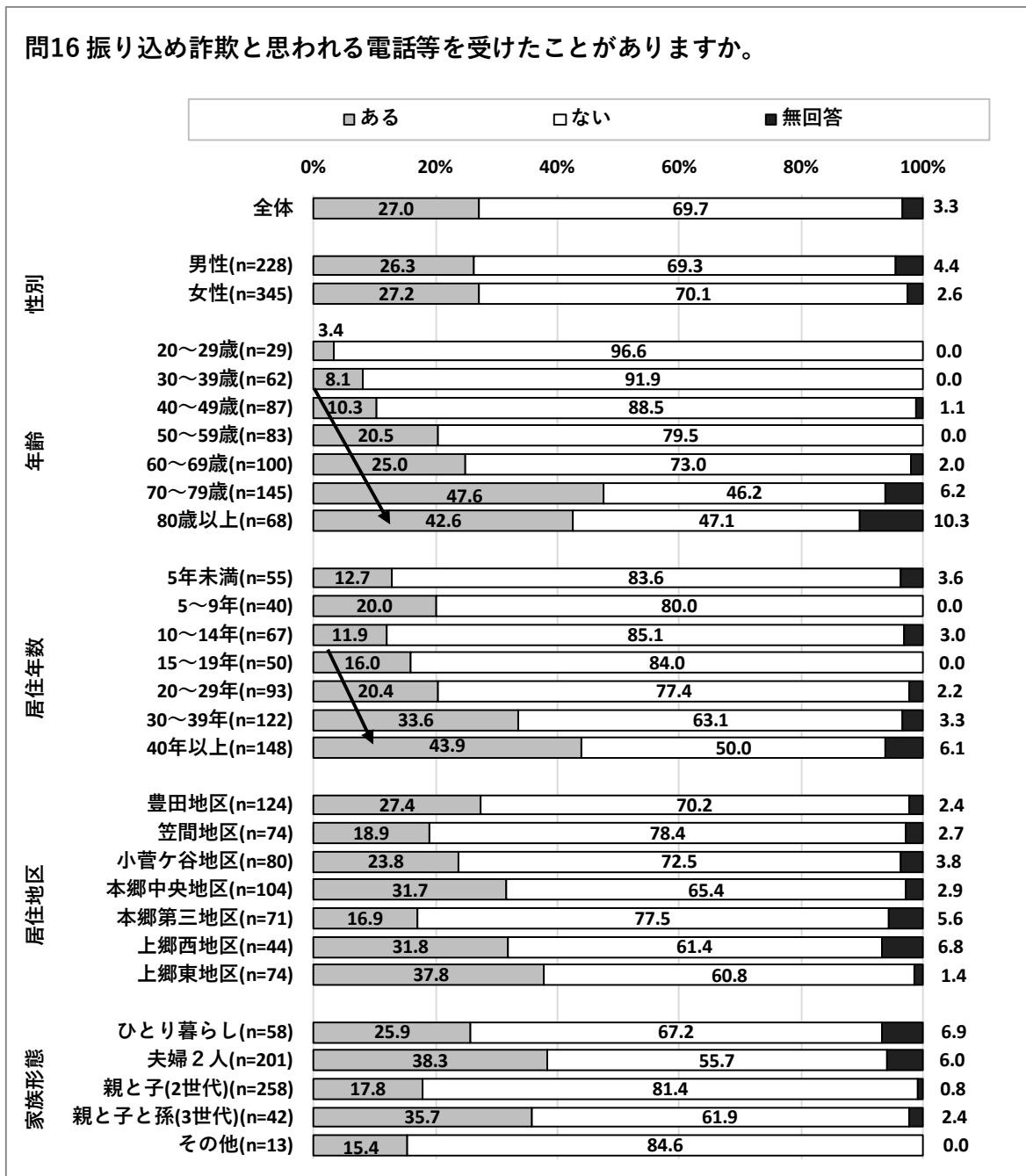
・居住年数が長くなるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

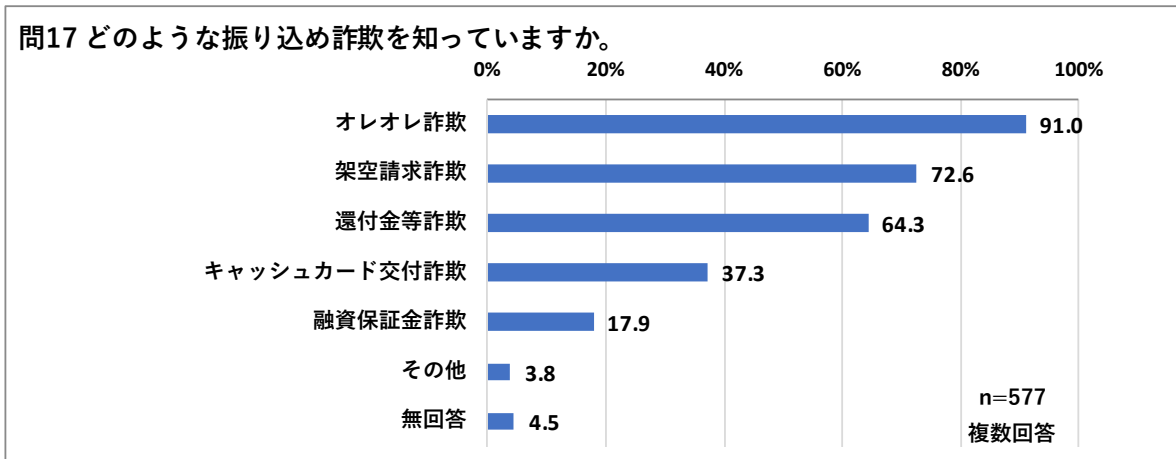
・「夫婦2人」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



(17) 知っている振り込め詐欺 【新規】

<全 体>

- ・ 知っている振り込め詐欺で最も多く挙げられたのは「オレオレ詐欺」が91.0%、次いで「架空請求詐欺」(72.6%)、「還付金等詐欺」(64.3%)の順となっている。



問17 どのような振り込め詐欺を知っていますか (その他記述)【18件】	
意味不明のTEL・はがき	3
フィッシング詐欺	2
裁判所呼出し詐欺	2
名義貸し(友人から)	2
着払いサギ(家族から受け取るなど言われている)	1
宅配詐欺(個人情報盗む)	1
不動産詐欺、リフォーム詐欺	1
示談金詐欺	1
インターネットウィルス被害詐欺	1
金融機関(郵便局)を名乗り取引有無確認詐欺	1
高島屋デパートで買物カードや買物したとの電話	1
その他(相手のねらいは不詳)	1
小銭¥1000分ぐらい	1

【知っている振り込め詐欺： 属性別】 上位4項目

<性別>

・「オレオレ詐欺」「架空請求詐欺」では「男性」より「女性」の割合が高く、「還付金詐欺」「キャッシュカード交付詐欺」では「女性」より「男性」の方が高くなっている。

<年齢別>

・「架空請求詐欺」は50歳未満で、「還付金等詐欺」は「50～59歳」で、「キャッシュカード交付詐欺」は「60～69歳」で、全体より10ポイント以上高い。

・「オレオレ詐欺」「架空請求詐欺」では、年齢が高いほど知っている割合が低くなる傾向にある。

<居住年数別>

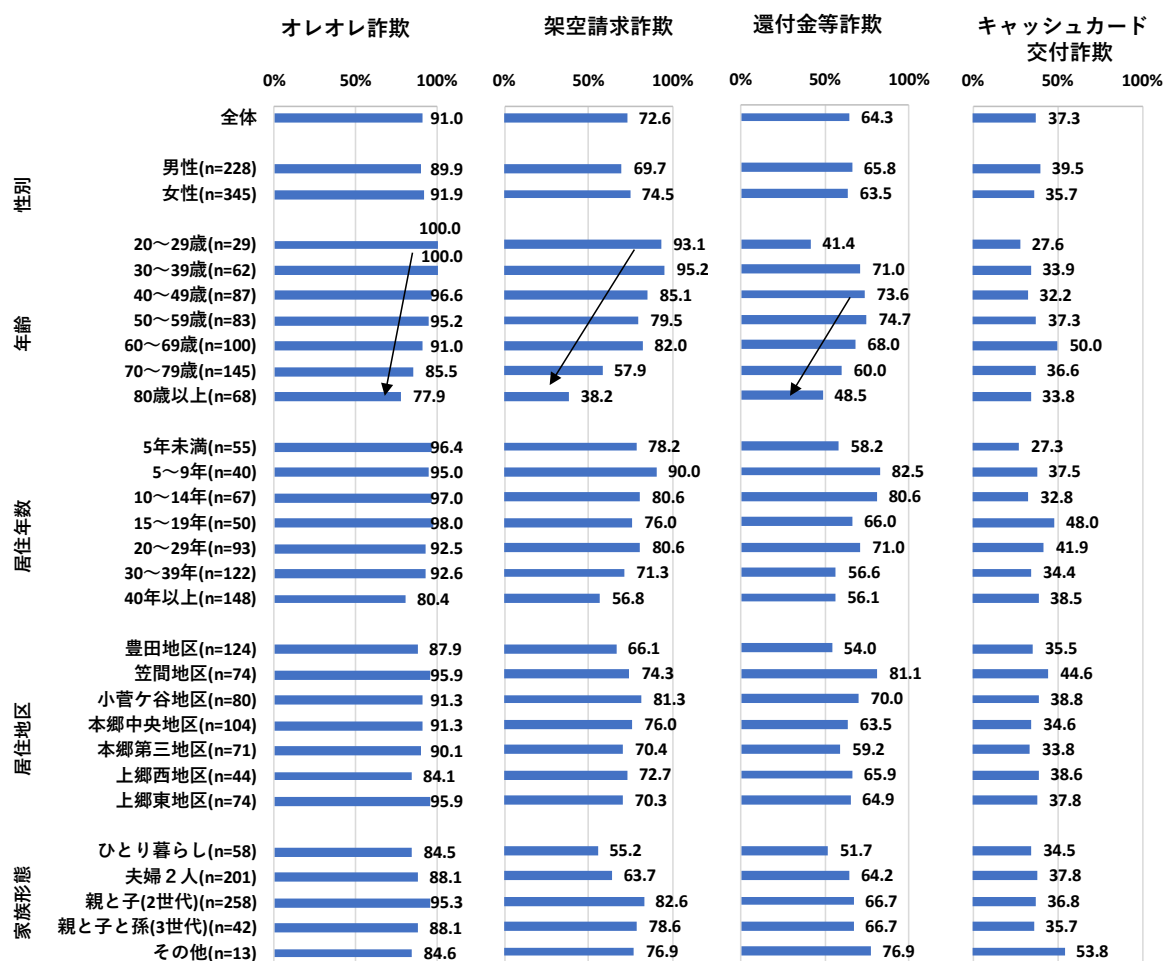
・「架空請求詐欺」は「5～9年」で、「還付金詐欺」は「5～9年」「10～14年」で、「キャッシュカード交付詐欺」は「60～69歳」で全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「笠間地区」では「還付金詐欺」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

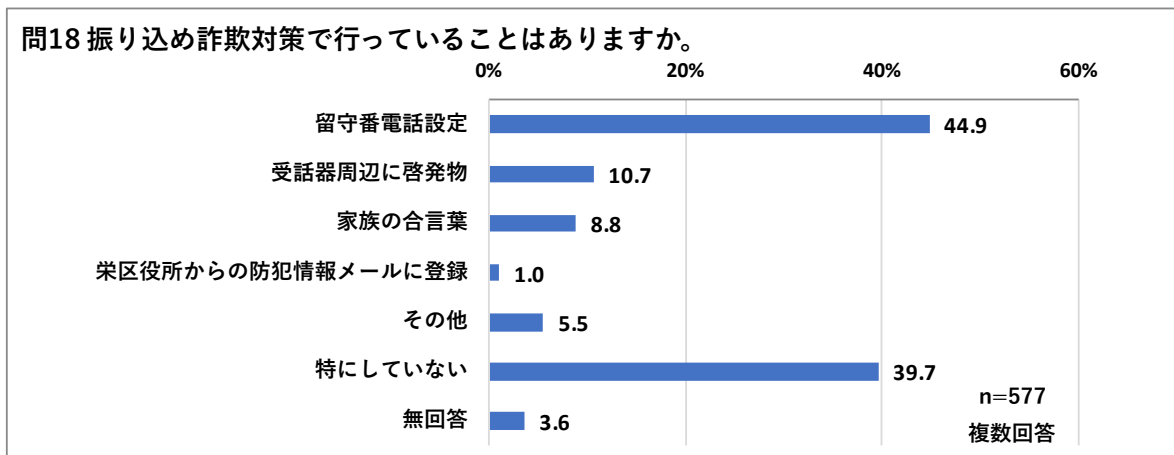
・「架空請求詐欺」では、「親と子(2世代)」「親と子と孫(3世代)」で全体より5ポイント以上高くなっている。



(18) 行っている振り込め詐欺対策 【新規】

<全体>

・「留守番電話設定」が44.9%、次いで「受話器周辺に啓発物」(10.7%)、「家族の合言葉」(8.8%)の順となっている一方、「特にしていない」が39.7%となっている。



【行っている振り込め詐欺対策： 属性別】 上位4項目

<性別>

・全ての項目で「男性」より「女性」の割合が高い。

<年齢別>

・年齢が高いほど振り込め詐欺対策を行っている割合が高くなる傾向があり、年齢が低いほど「特にしていない」割合が高くなる傾向がある。70代以上で「受話器周辺に啓発物」、「80歳以上」で「家族の合言葉」が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

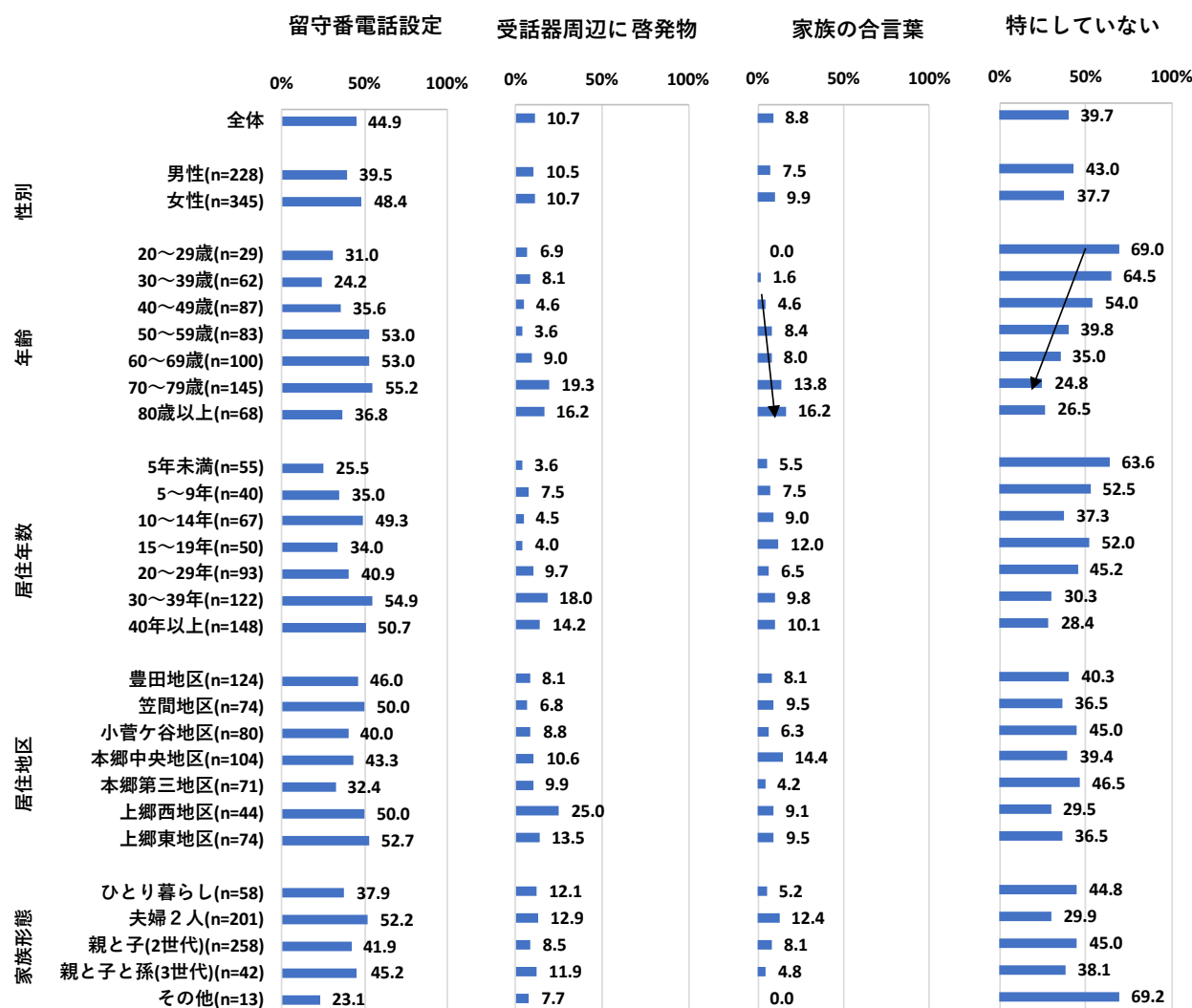
・「留守番電話設定」は「30～39年」で、全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「上郷西地区」では「受話器周辺に啓発物」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

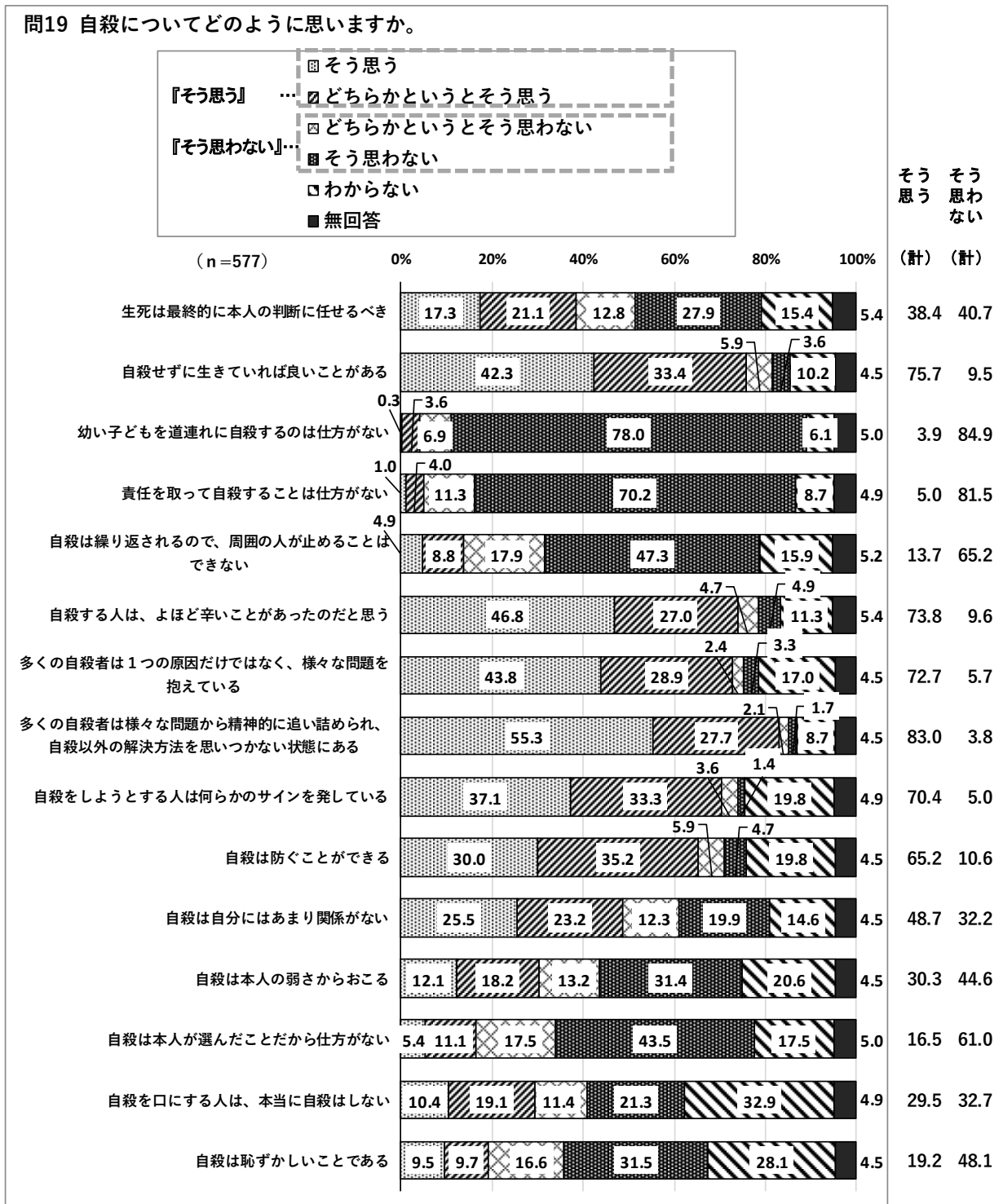
・「留守番電話設定」では、「夫婦2人」で全体より5ポイント以上高くなっている。



(19) 自殺についての考え方

<全体>

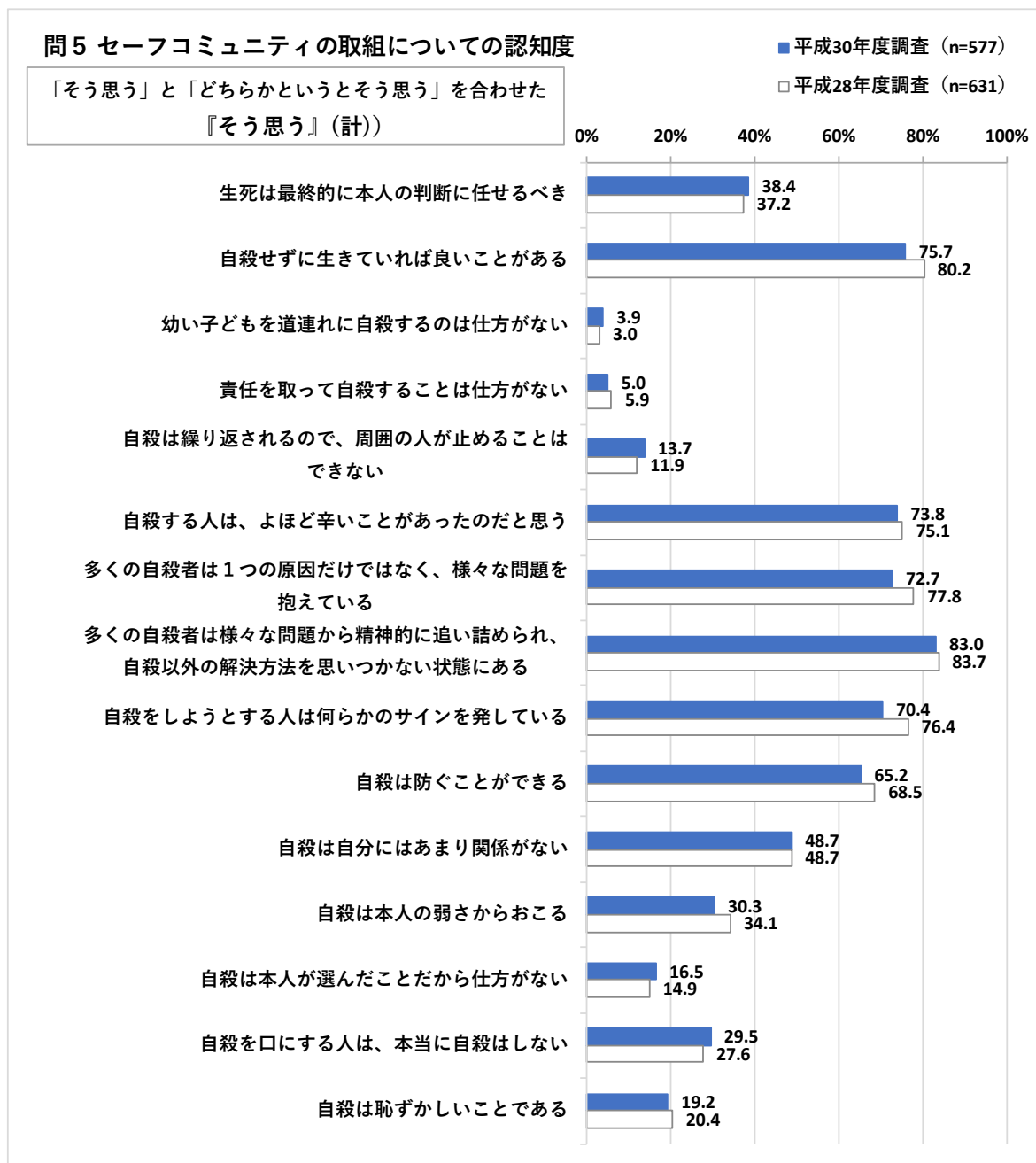
- ・「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思い浮かべない状態にある」は「そう思う」方が5割以上、「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」「責任を取って自殺することは仕方がない」は「そう思わない」方が7割以上と高い割合になっている。



【自殺についての考え方： 時系列】

<平成28年度調査と比較>

・「『そう思う』と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』の割合で比較すると、意識にあまり差はないが、「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」で、『そう思う』割合が、平成28年度調査に比べて5ポイント以上減少している。



【自殺についての考え方： 属性別】

「そう思う」「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思う』
 「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較

1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

<性別>

・「女性」より「男性」の方が『そう思う』で11.1ポイント高く、『そう思わない』で10.6ポイント低い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

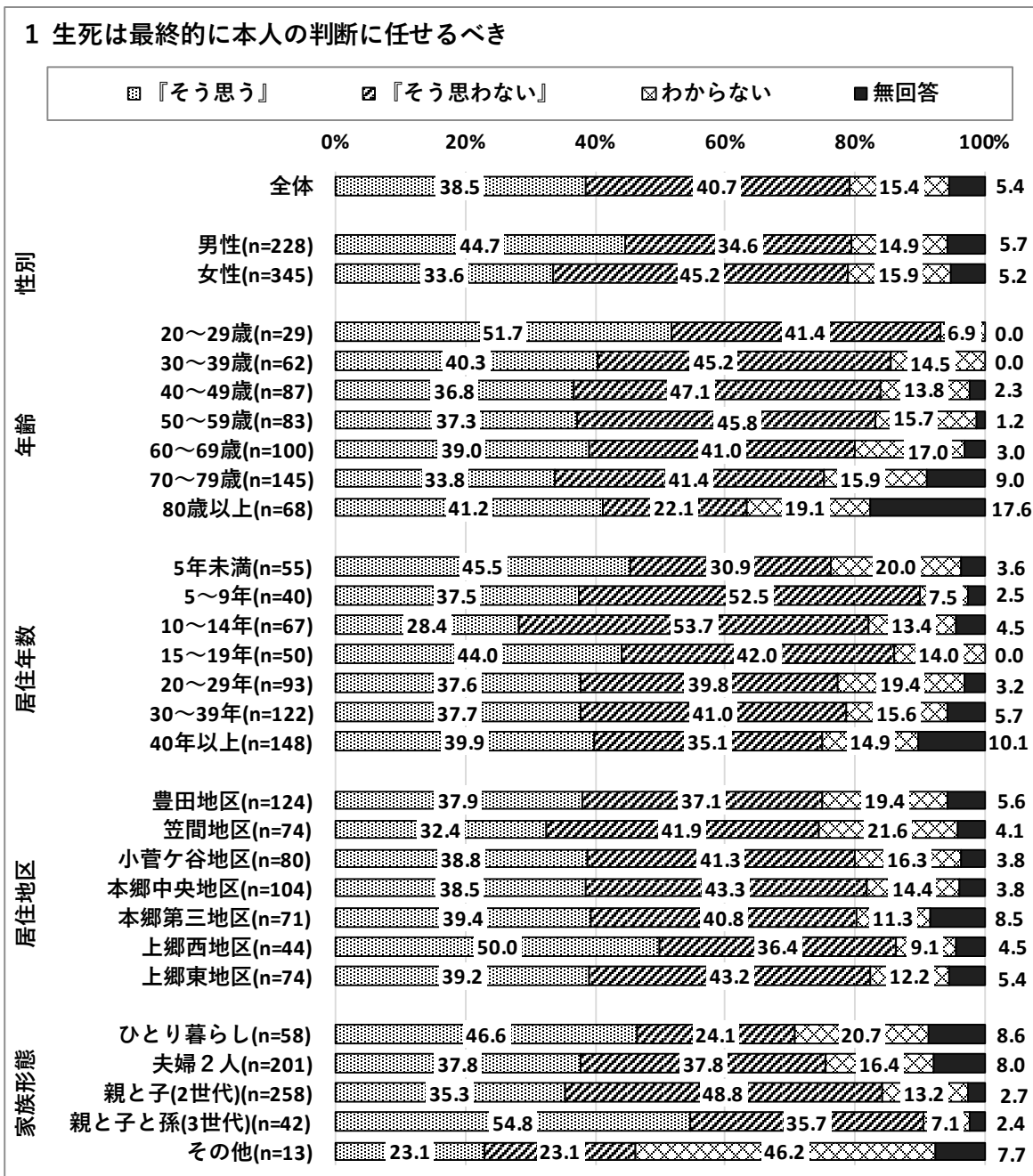
・「5～9年」「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。



2 自殺せずに生きていけば良いことがある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で2.7ポイント高いがほぼ差は見られない。

<年齢別>

・年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高い傾向が見られる。「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い

<居住年数別>

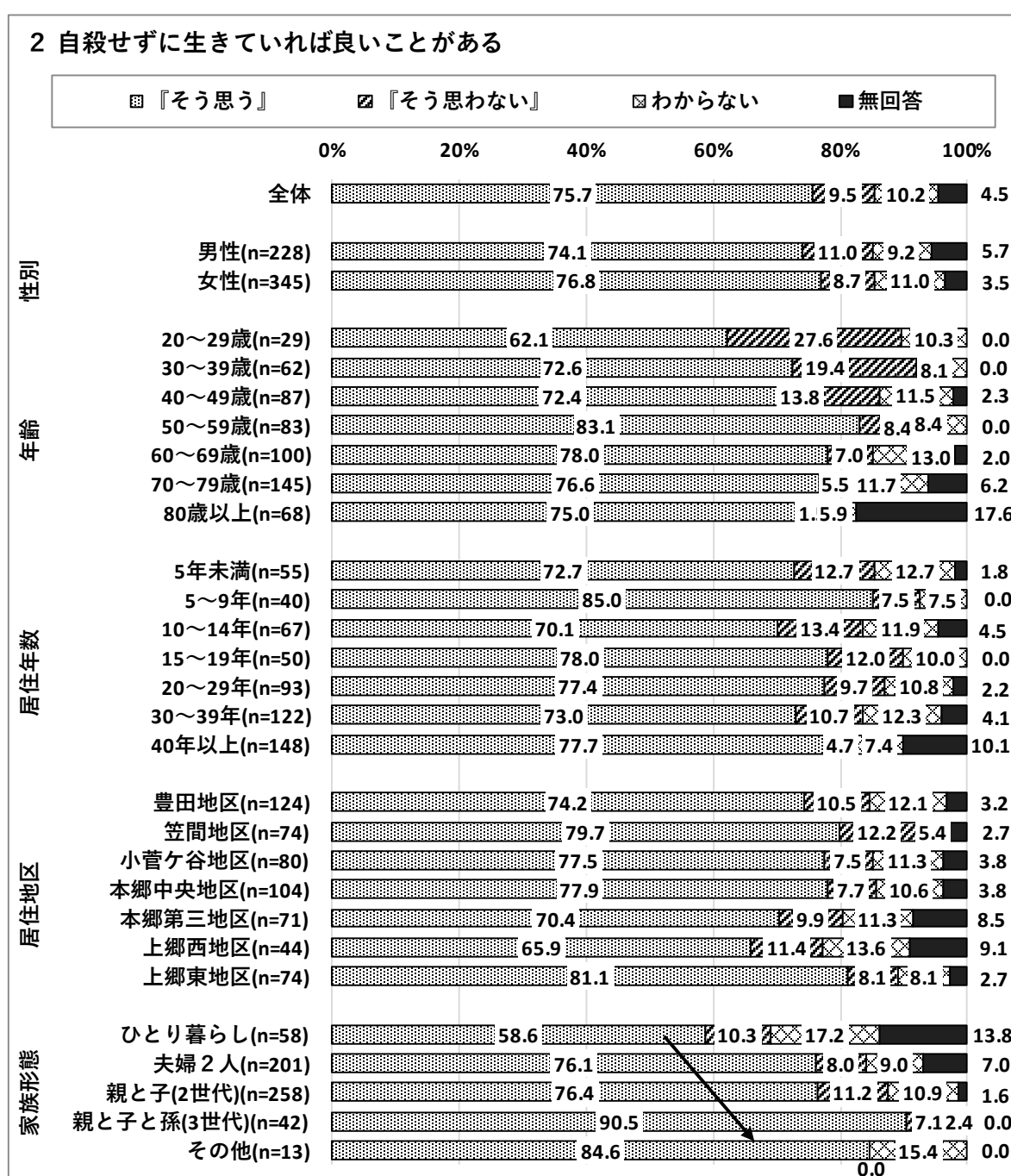
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント程度高い

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合は高くなる傾向が見られる。



3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が2.0ポイント高いが男女共に8割以上の区民が「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住年数別>

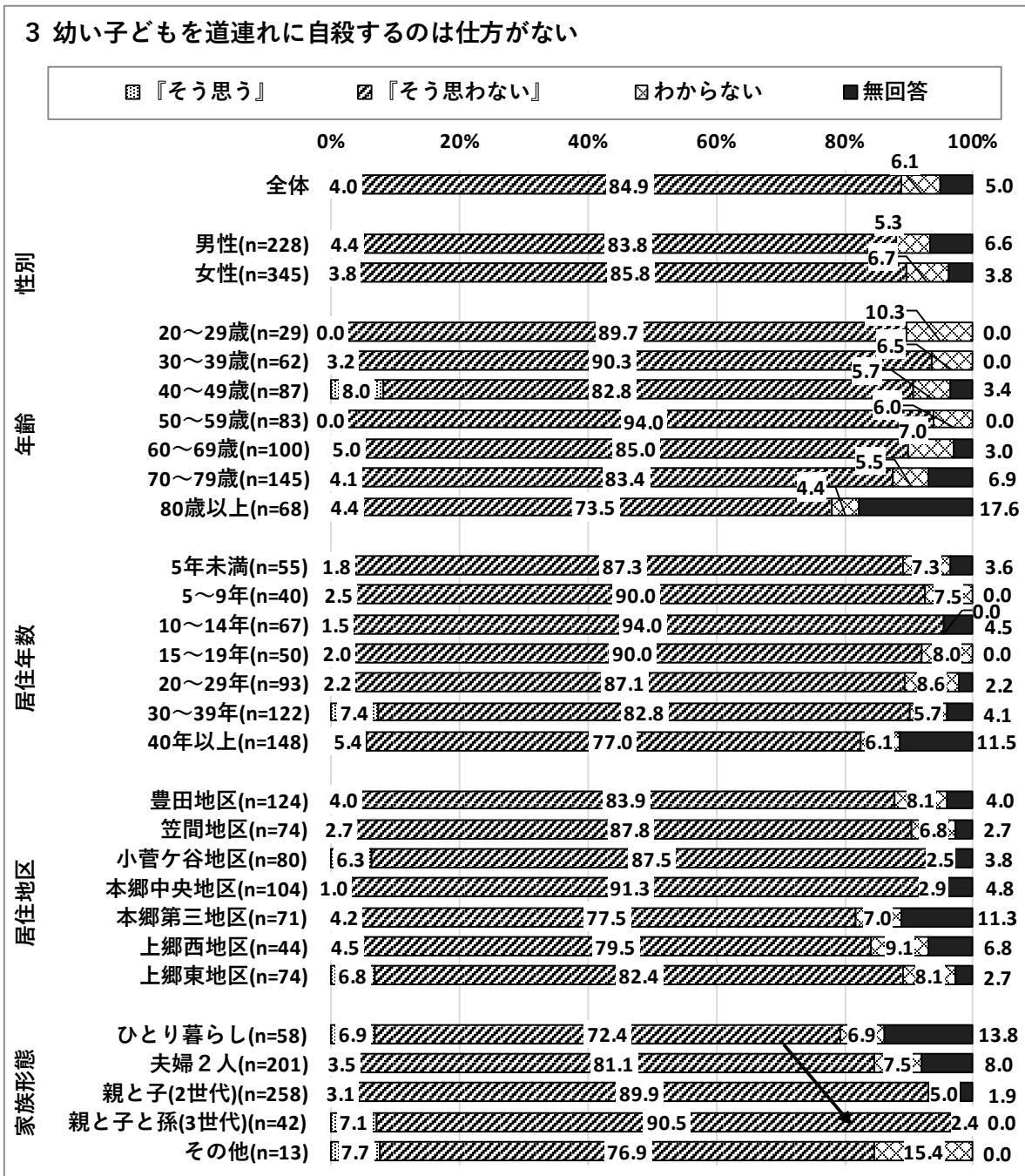
・「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、『そう思わない』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



4 責任を取って自殺することは仕方がない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が7.8ポイント高いが男女共に8割前後の区民が「責任を取って自殺をすることは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられ、「30～39歳」で『そう思わない』の割合が90.3%と全体より8.8ポイント高くなっている。

<居住年数別>

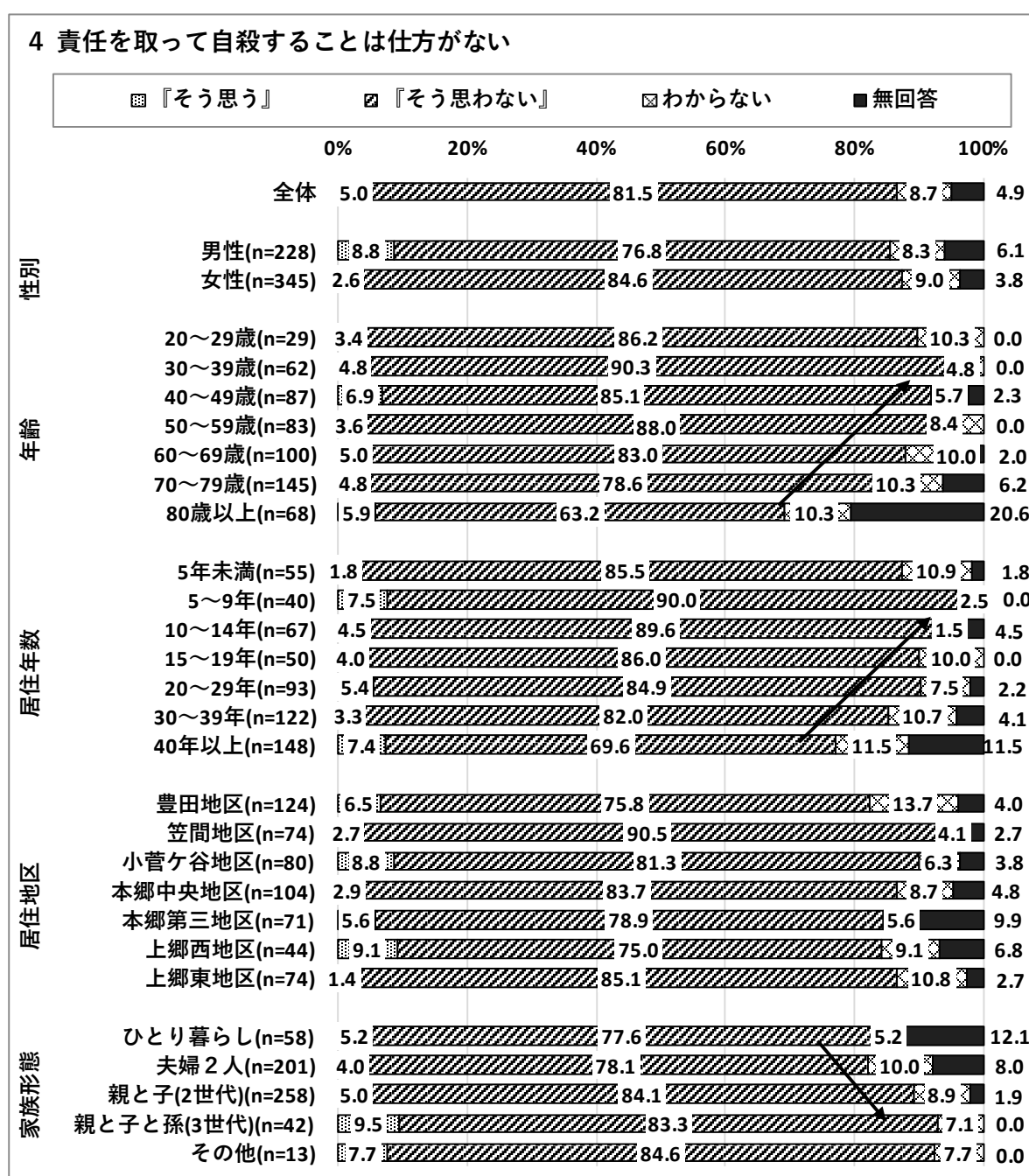
・「5年未満」を除いて、居住年数が短いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られ、「5～9年」で『そう思わない』の割合が90.0%と全体より8.5ポイント高くなっている。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が3.5ポイント高いが男女共に6割以上の区民が「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられ、「30～39歳」で『そう思わない』の割合が80.6%と全体より15.4ポイント高くなっている。

<居住年数別>

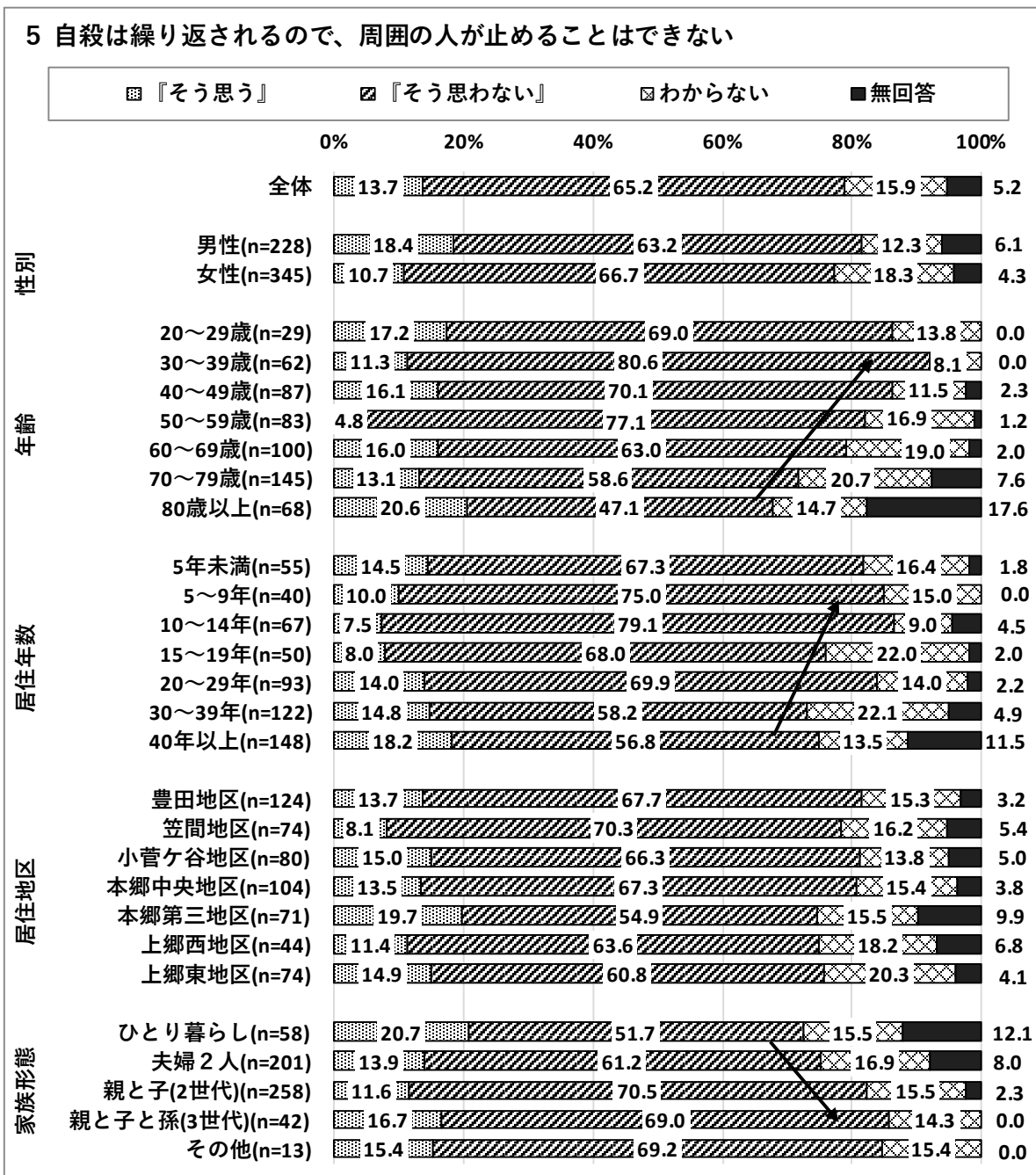
・「5年未満」を除いて、居住年数が短いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られ、「10～14年」で『そう思わない』の割合が79.1%と全体より13.9ポイント高くなっている。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、1.0ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「自殺をする人はよほど辛いことがあったのだと思う」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・50代以上で年齢が上がるほど『そう思う』の割合が低くなっている

<居住年数別>

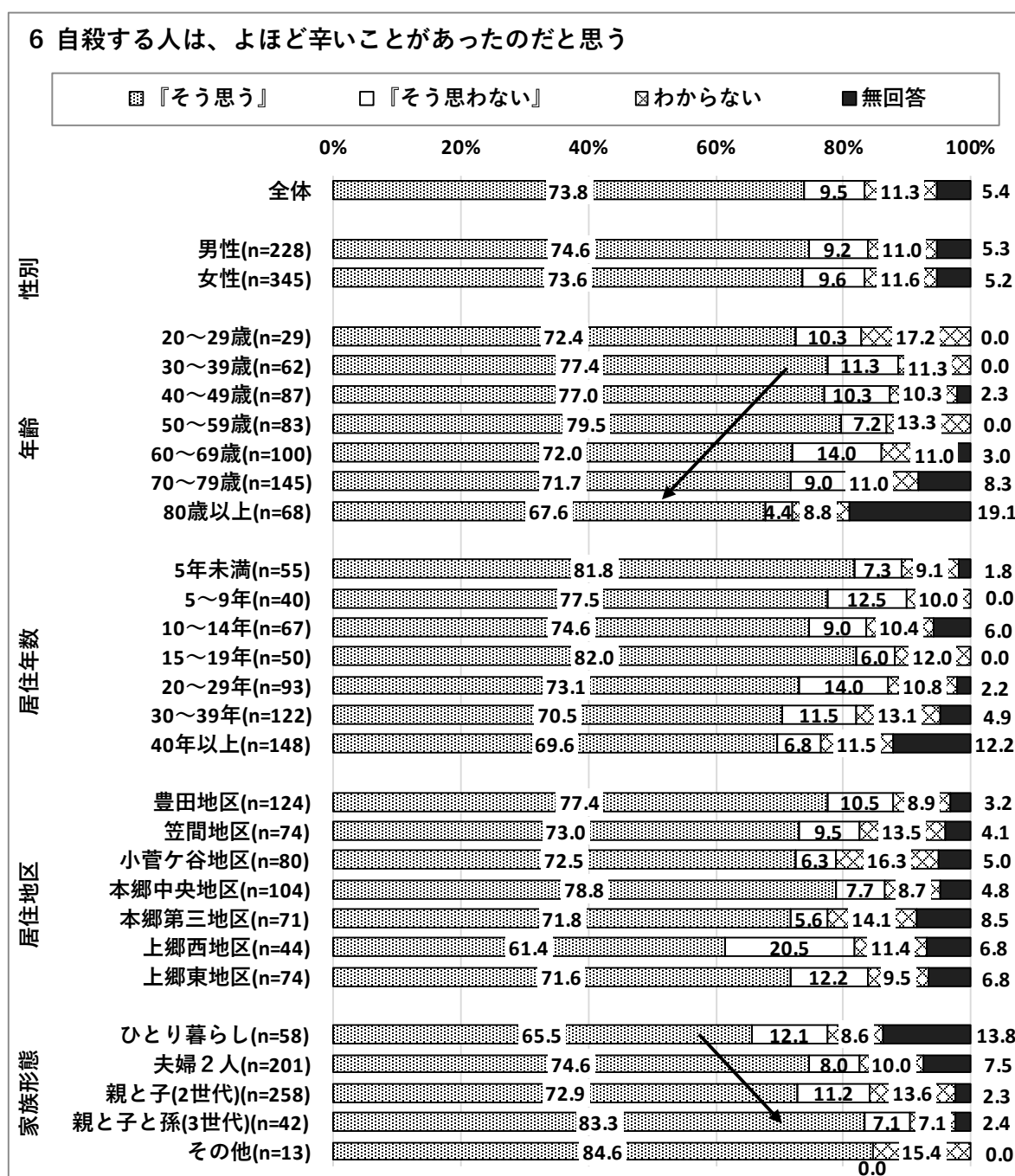
・「5年未満」「15～19年」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、8.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど『そう思う』の割合が低くなる傾向がみられ、「80歳以上」では、全体の15ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

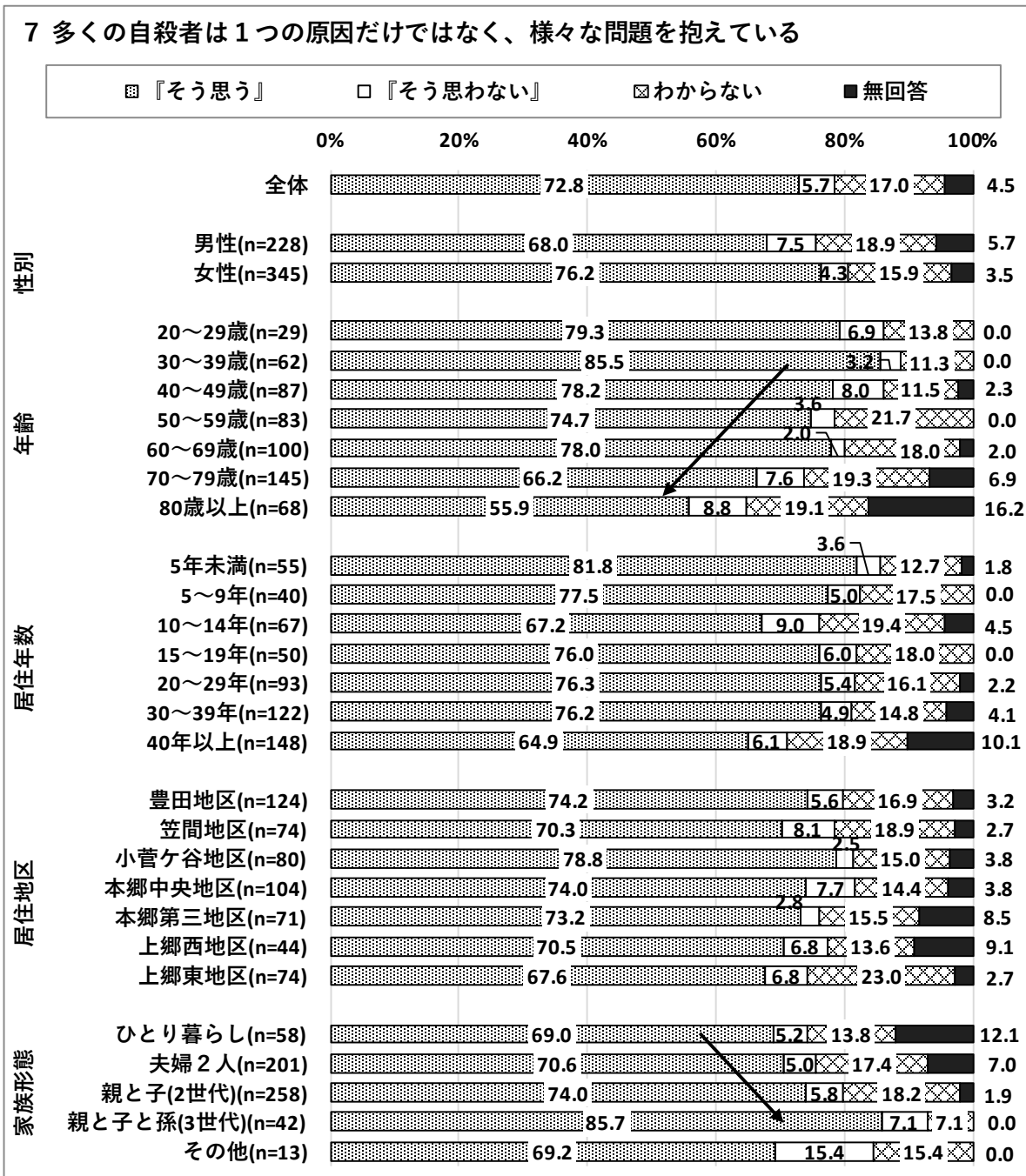
・「5年未満」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

<性別>

- ・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.6ポイント高いが、男女共に8割以上の区民が「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と感じている。

<年齢別>

- ・「60～69歳」を除いて、年齢が下がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「20～29歳」では100.0%となっている。

<居住年数別>

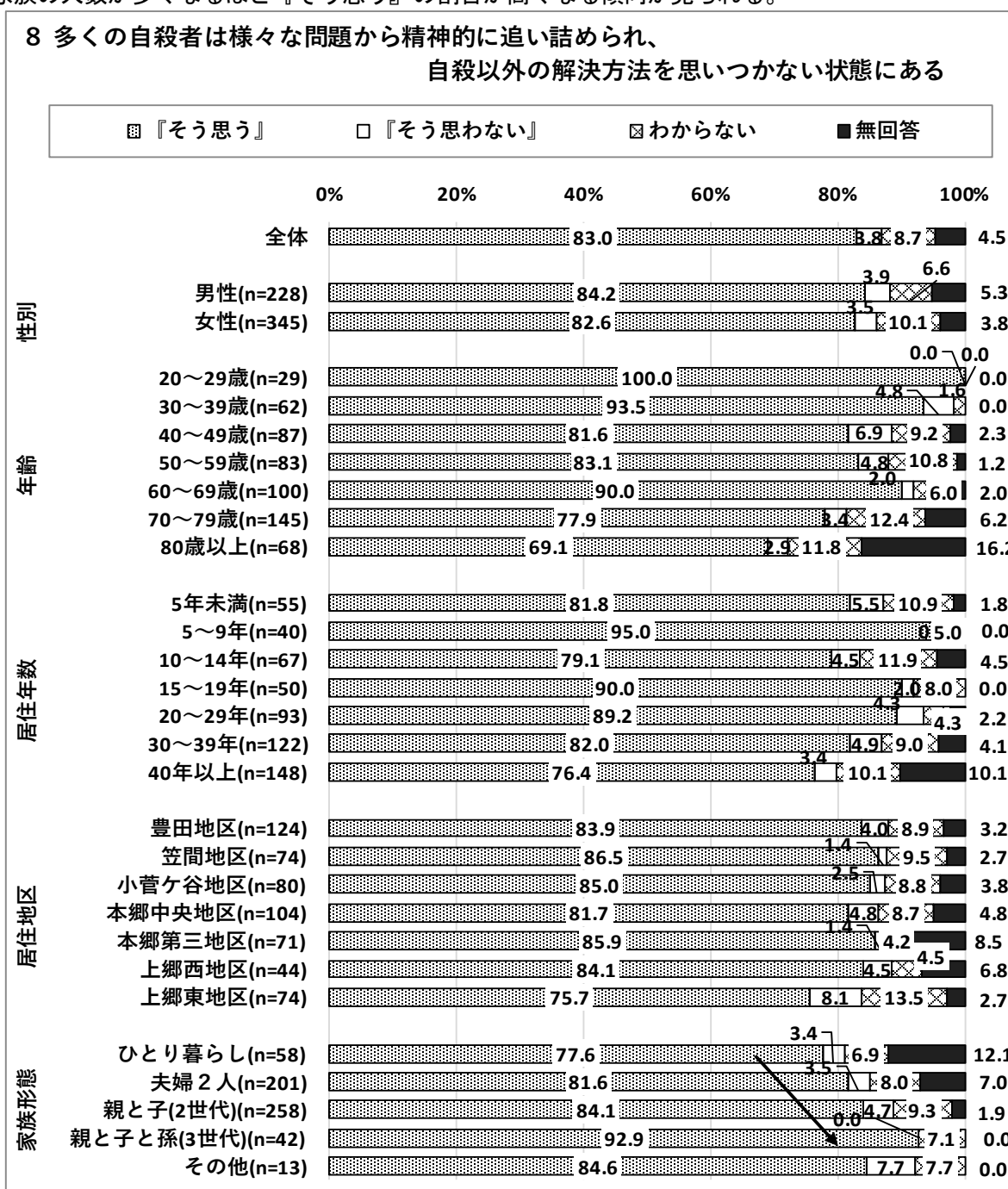
- ・「5～9年」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

- ・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

- ・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、9.6ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が最も低く、全体の10ポイント以上低い。

<居住年数別>

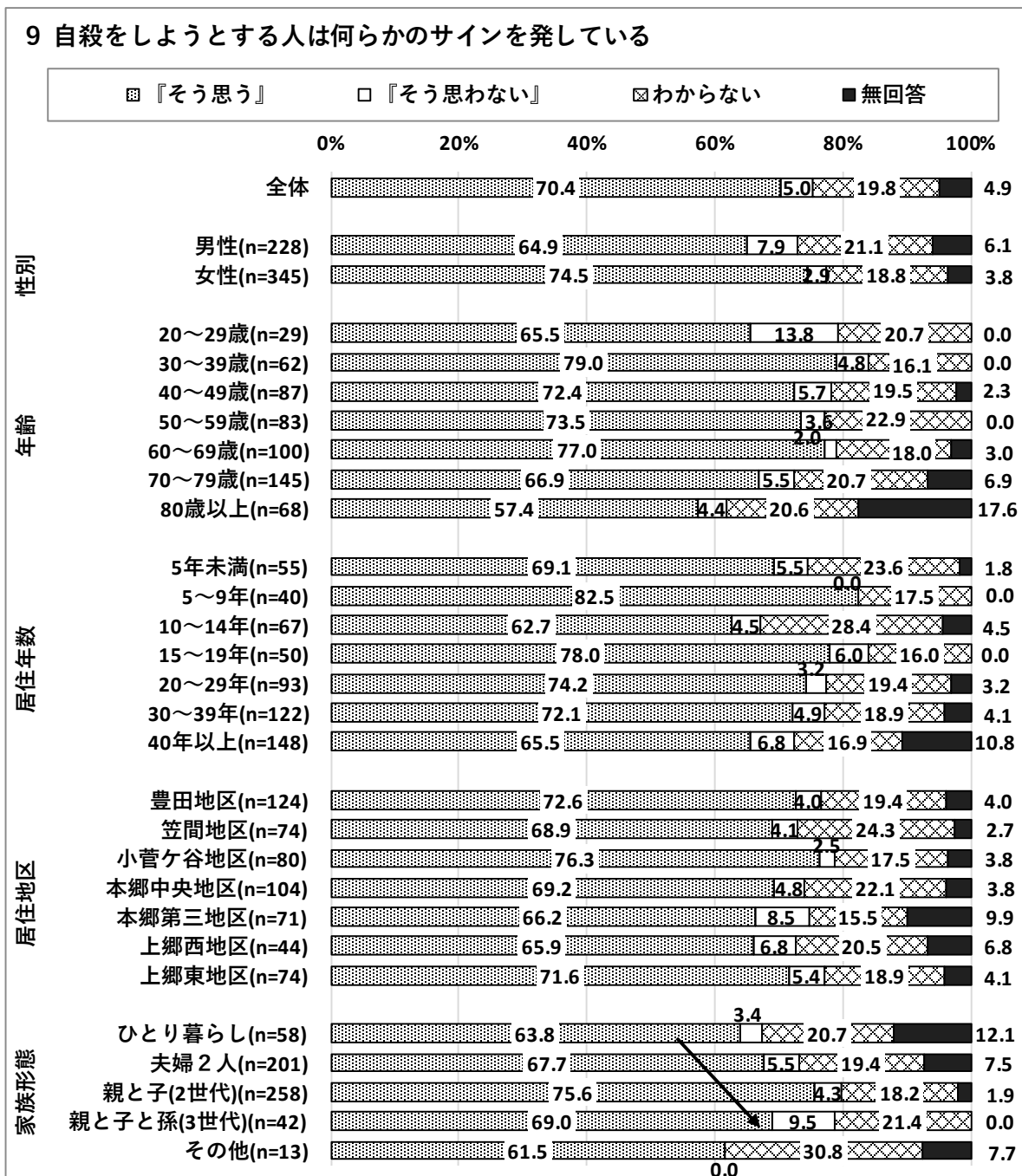
・「5～9年」「15～19年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」を除いて、家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高い傾向が見られる。



10 自殺は防ぐことができる

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、6.4ポイント高く、男女共に6割以上の区民が「自殺は防ぐことができる」と感じている。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が10ポイント程度低い。

<居住年数別>

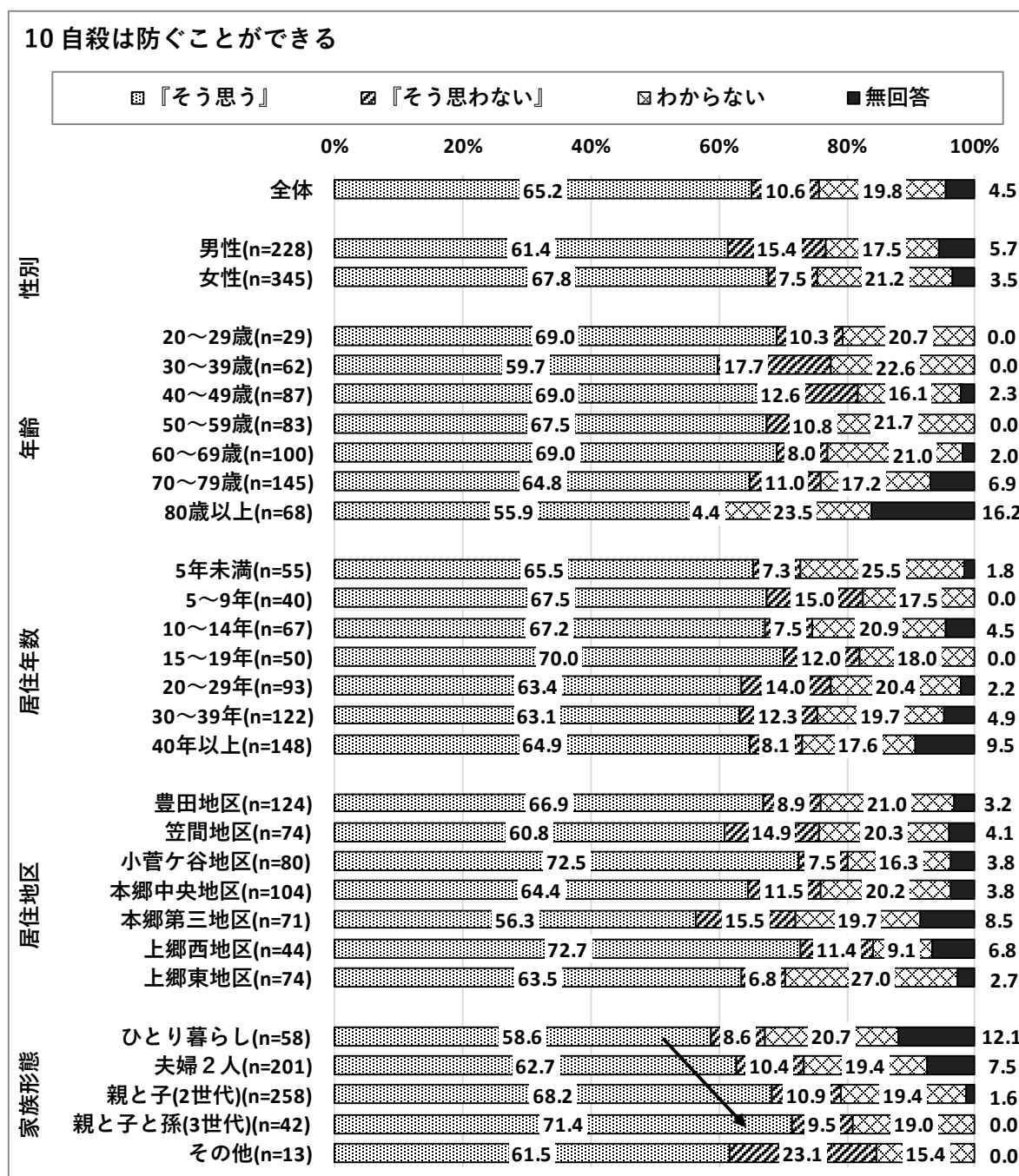
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「上郷西地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



11 自殺は自分にはあまり関係がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、7.6ポイント高く、男性の方が「自殺は自分にはあまり関係がない」と感じている。

<年齢別>

・「20～29歳」「80歳以上」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

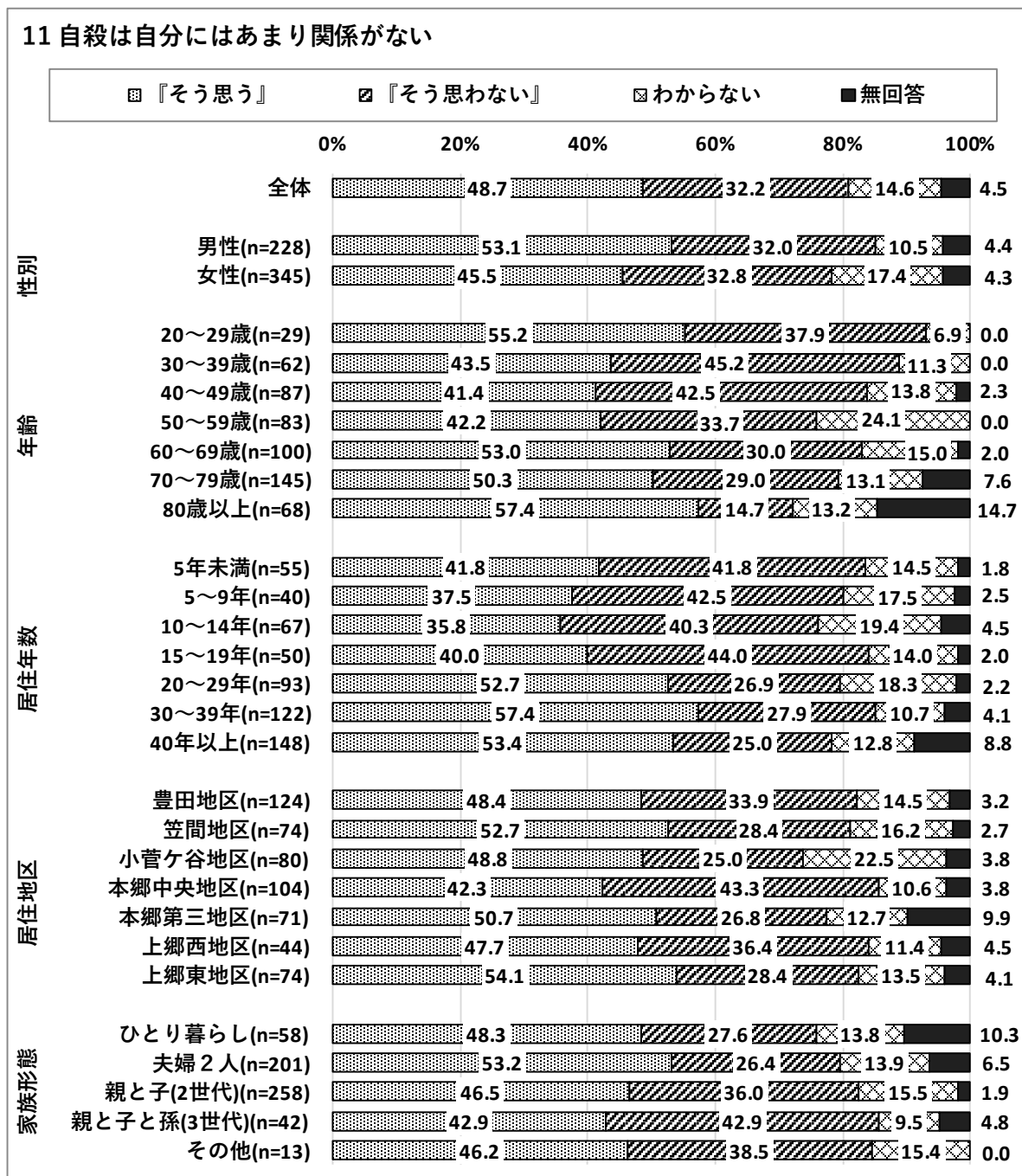
・「30～39年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント程度高い。



12 自殺は本人の弱さからおこる

<性別>

・「男性」の約4割が『そう思う』と回答し、「女性」約5割が、『そう思わない』と回答し意見が分かれた。

<年齢別>

・年齢が低いほど『そう思わない』と回答する方が多く、年齢が上がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高くなっている。

<居住年数別>

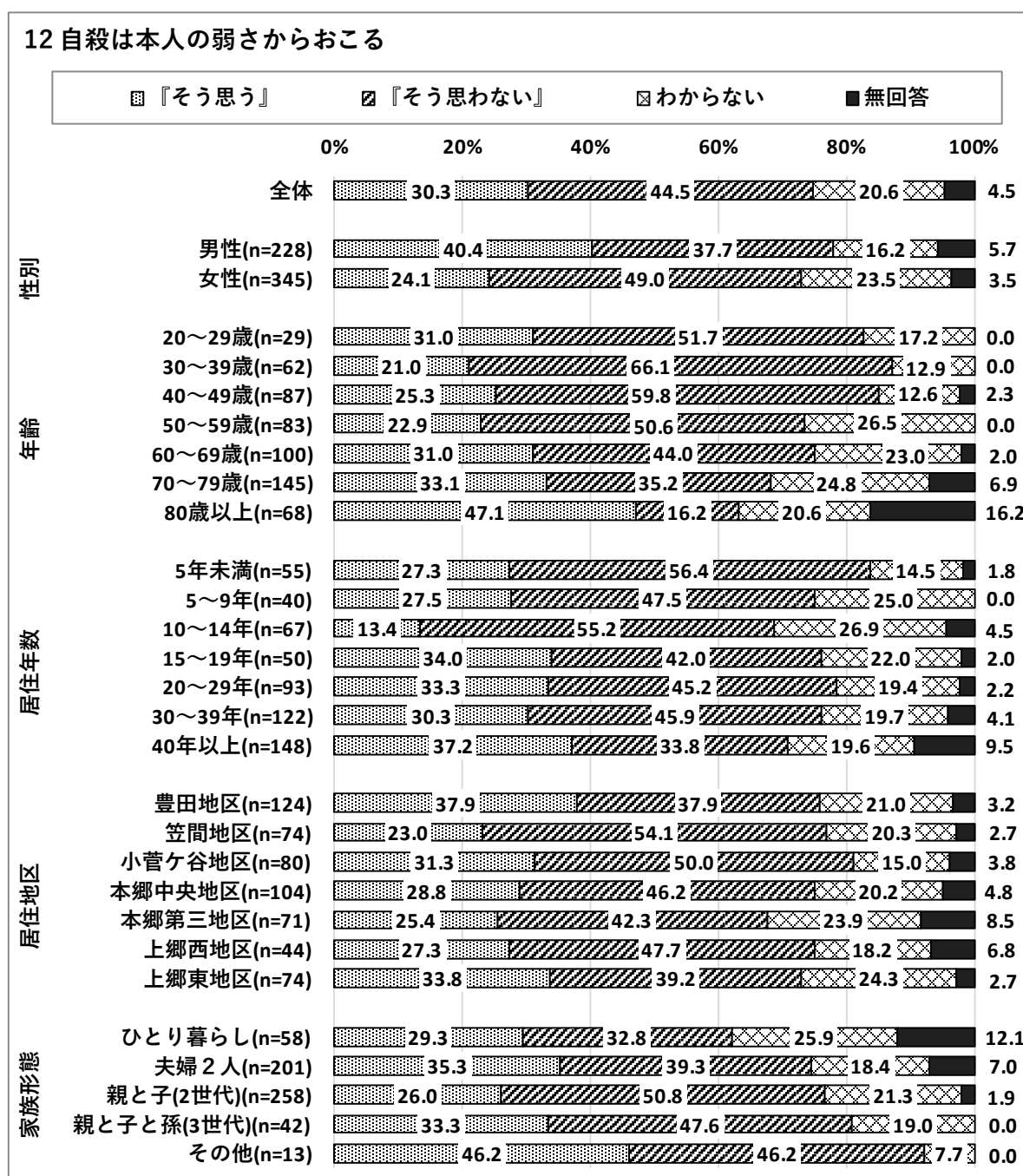
・「5年未満」「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。



13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

<性別>

・男女共に6割前後の方が「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高く、「80歳以上」では、全体より5ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

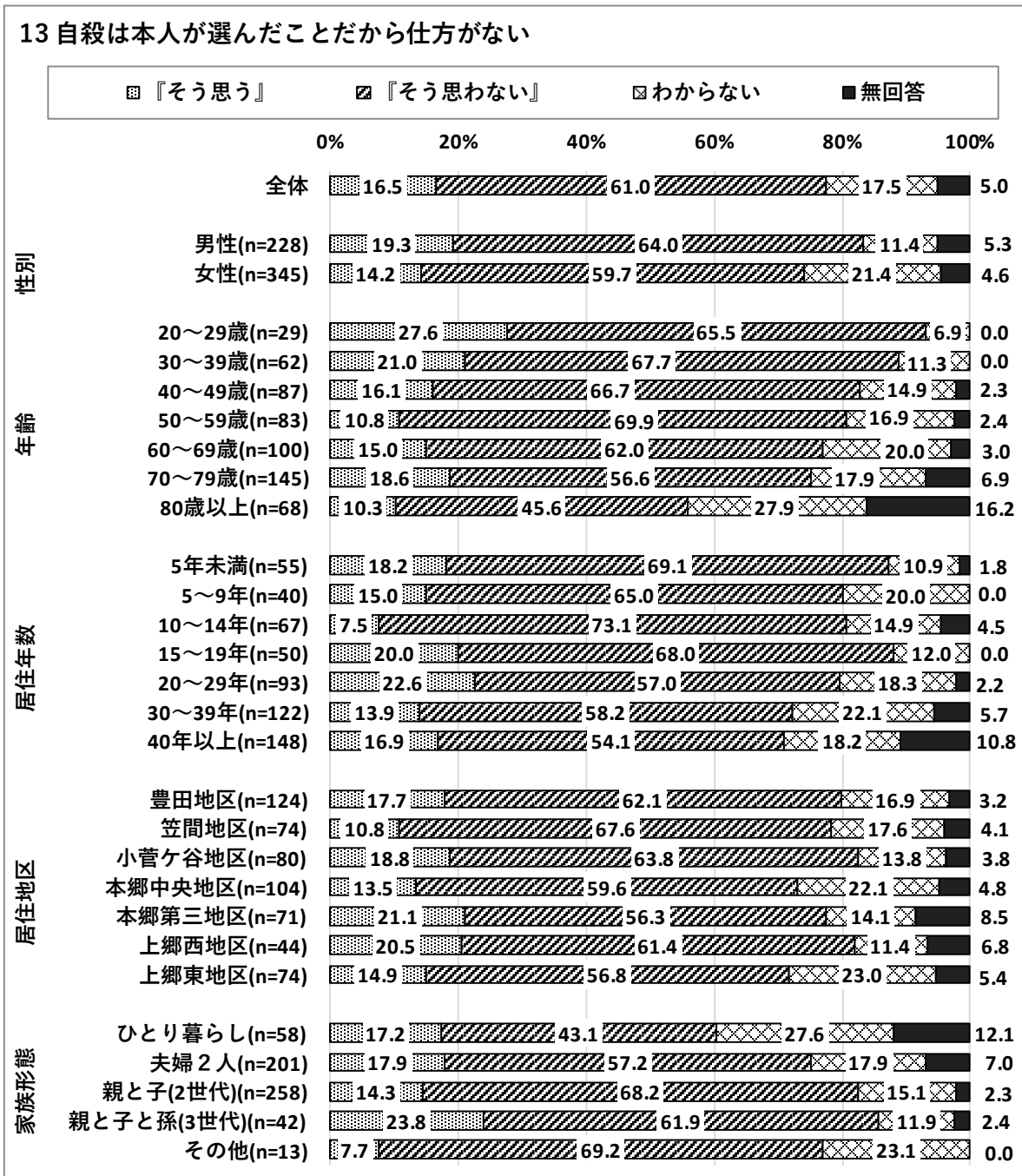
・「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思わない』の割合が全体より15ポイント以上低い。



14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

<性別>

・男女共に、『そう思う』と『そう思わない』が3割程度で拮抗しており、男女間に大きな差はない。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思わない』が全体より20ポイント以上高い。

<居住年数別>

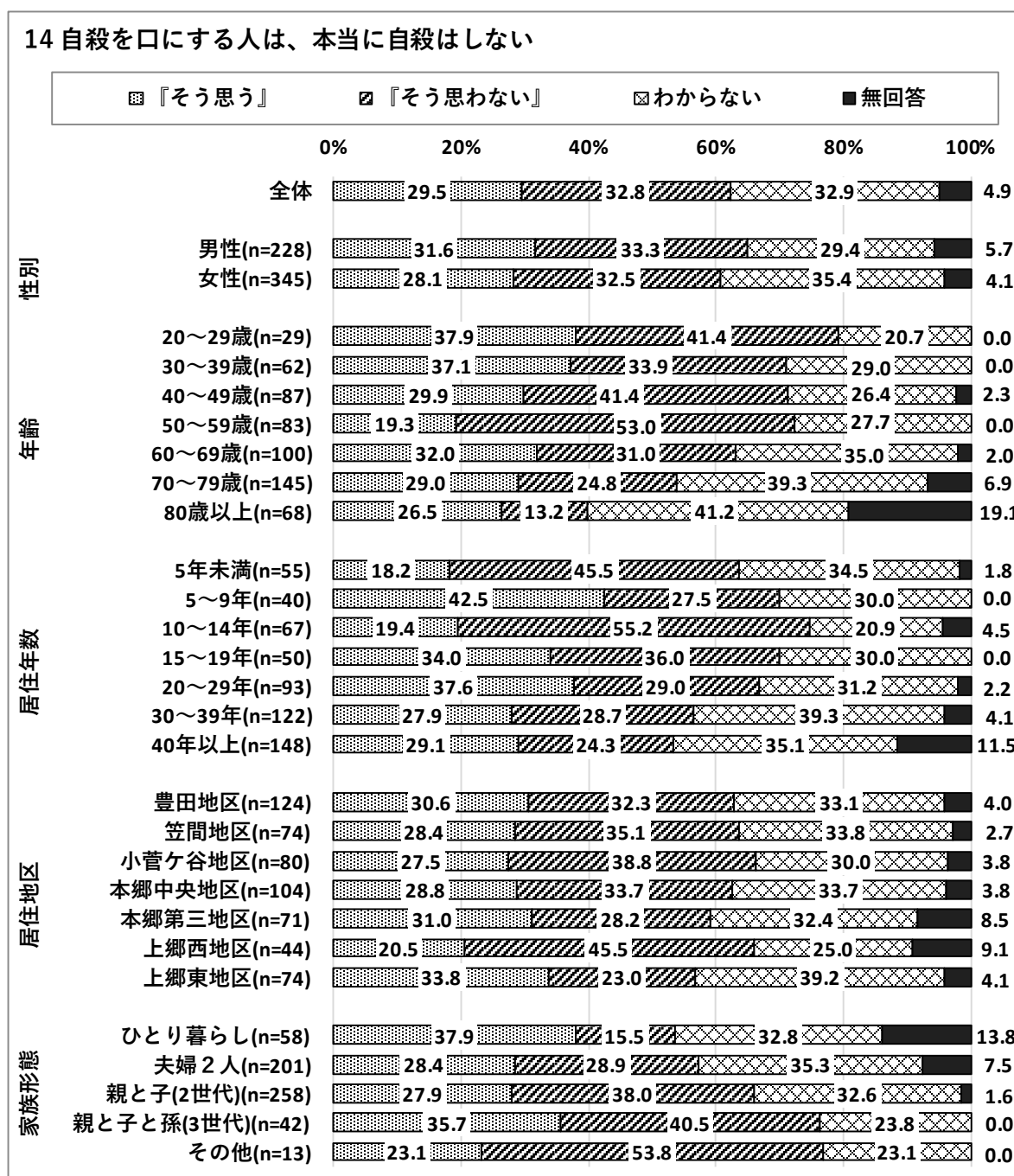
・「5～9年」では、『そう思う』割合が全体より10ポイント以上高く、「10～14年」で『そう思わない』割合が全体より20ポイント以上高くなっている。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思わない』割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思う』割合が全体より5ポイント以上高い。



15 自殺は恥ずかしいことである

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で13.7ポイント高く、女性の5割以上は「自殺は恥ずかしいことである」とは思っていない。

<年齢別>

・年齢が上がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、全体より10ポイント以上高くなっている。

<居住年数別>

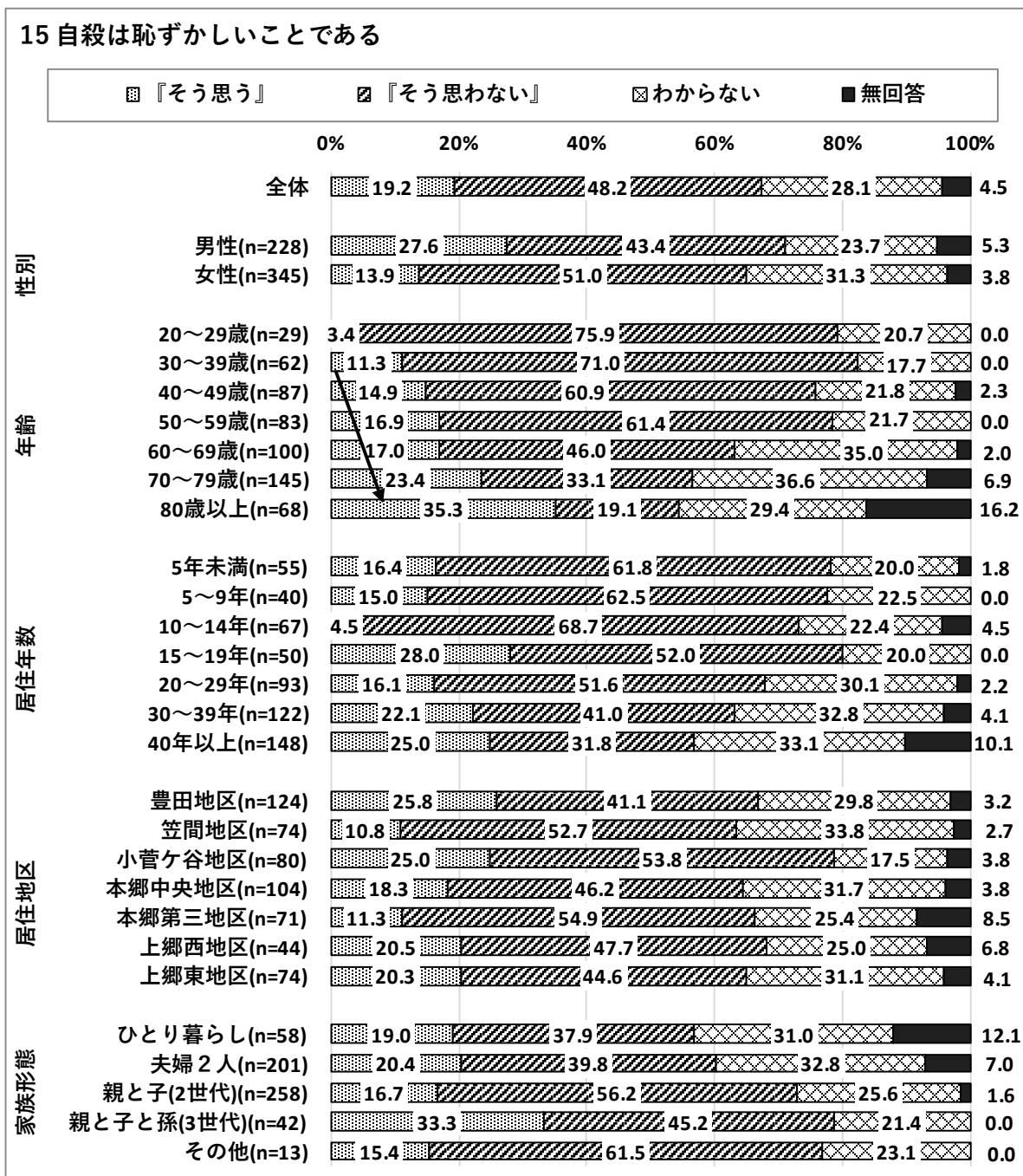
・居住年数が15年未満では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高くなっている。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「本郷第三地区」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』で全体より10ポイント以上高い。



(20) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

- ・セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で65件（11.3%）の回答がありました。

意見の種類 (大分類)	件数	意見の種類 (中分類)	主な意見内容
感想	20	13 肯定 (満足・前向き)	・『横浜市』ではなく『栄区』という単独でのセーフコミュニティ都市に選ばれたのは素晴らしい事である。 ・継続は「力」です。5年後の再認証に向けてガンバロー！ ・PDCAサイクルというのはプラン→ドゥ→チェック→アクションのことと知り大切だと思いました。
		3 否定 (不満・不安・疑問)	・赤ちゃんからお年寄りまで誰もが住みやすい、全国のモデルのような街になるように、私も栄区民として協力したい。 ・セーフコミュニティに認証されていることは、図書館などの広告で知っていましたが、詳細は理解していませんでした。子どもたちにもアンケートの内容を読ませました。調査に参加できてよかったです。
		1 意見・提案・要望	・セーフのワクが広すぎると思う。サギと自然災害では、注目度が人により大きく変動すると思う。 ・今は生きづらい。情報も多く知らなくていい事も知りすぎて悩む精神が強い人になりたい。孫のいじめ等考えると、心配します。若い人の自殺は助けられなかったのか。虐待も昔はなかったし。
		3 どちらでもない (その他)	・アンケート内容を見て思った事だが、行政が出来る範囲の対策と行政だけでは解決不可能な問題もあるように感じた。活動内容は根本的解決に有効か否か仕分けて、もう少し絞るべきだと思う。
プロモーション (広報)	18	3 肯定 (満足・前向き)	・区から配布されるチラシ・お知らせ等、よく目を通す様心掛けます。 ・この取組が全区民に誰にでも、簡単に分る、伝える様になるといいと感じます。何よりこのことが1人でも多くの人に理解されること全区民が何らかの活動に参加することが、よりよい環境につながるのかと思います。まずは、周知を。
		2 否定 (不満・不安・疑問)	・どのような取組をしているのか、簡単にまとめたリーフレットなどがあると良いかも。
		12 意見・提案・要望	・駅前でタッチー君を用いたイベントなどを開催することで人目を引き興味を持ってくれる人が多いと思う。「セーフコミュニティ」は今後の活動と、理解しました。私には、現在のところ、その活動の中身が見えていません(当然ですが)。指導者(区役所)が、明確な方針(課題、目標、方策)管理を打ち出し、区民ファーストで課題を達成することを期待いたします。実施項目を検討される時、やはりニーズを考慮して、年齢別とか、主婦、職種、など一考されたいと思います。
		1 どちらでもない (その他)	
災害への備え	3	1 意見・提案・要望	・震災時トイレが心配で避難すべきか迷っています。(心臓腎臓が悪い為) ・具体的に活動している事が身近ではないので活動だけでなく、どこに行っても良いのか、わかるようにしてもらいたい。地震の避難訓練も場所がわからない人が沢山います。炊き出しにいつも力を入れているが助かってからの話でその前の事が何もしていない。栄区だけが他の県よりまったく地震の取り組みが出来てないのでもち早く改善して早く避難場所がわかるマップを作って安心して住めるまちづくりを考えてもらいたい。
		2 どちらでもない (その他)	
高齢者の安全	6	4 肯定 (満足・前向き)	・個人の問題解決は難しいと思いますが、地域で犯罪から守れることもあると思います。高齢者の一人暮らしが増加してるので、地域で守ることは必要だと感じました。 ・老人世帯で生活の質が、今後ますます下がっていくと思います。救急相談電話のように、生活の些細な問題を相談できる窓口があるといいのですが。
		2 意見・提案・要望	・高齢者の交通事故撲滅策として運転免許返納を推進するためにも敬老パス制度は今後とも維持して欲しい。 ・知らない事が多かった。横のつながり、縦のつながりが、できてくると良いと思った。又、高齢者をだます詐欺は、絶対に許してはいけないと思う。
交通安全	5	1 肯定 (満足・前向き)	・交通事故を防ぐための自転車専用レーンの整備が遅れていると思います。今だに歩道を我者顔で走って自転車が多く、常々危ないと思っていました。乗車マナーとあわせて取り組むべきです。
		1 否定 (不満・不安・疑問)	・信号機の設置など、行政の強力な取組みと具体化が欲しい。
		3 意見・提案・要望	・横断歩道に立っただけでも止まる車がほとんど無い現状は、非常にキケン！！ ・区内の走行速度は、20km以下と定めるなど認証都市ならではのルールが欲しい。
生活の安心・安全	5	2 否定 (不満・不安・疑問)	・子供がいない人達、老人にも優しい町であってほしい。
		2 意見・提案・要望	・セーフコミュニティ以前に近所づきあいのないでどうしようもない。賃貸住宅に7年くらいして公園などにも子供を連れて行くが住民とコミュニケーションがほとんど取れない。皆に警戒されているように感じる。
		1 どちらでもない (その他)	
子育て支援と虐待の防止	4	3 意見・提案・要望	・栄区は子ども支援のコミュニティ場が少なく感じる。港南区に足を運ぶ人も多い。できることなら、自宅近くでの遊び場が来やすい雰囲気になると栄区も若い人にとって住みやすくなると思う。公園、広場の充実です。(日陰の場を作る、水あそびの場を作るetc)
		1 否定 (不満・不安・疑問)	・いろいろ言ってもそもそもは家庭でのしつけからだだと思います。
防犯対策	2	1 意見・提案・要望	・家に停めていた自転車を2回も盗まれた。窃盗に対して強化すべき。安全な街だと思いたいです。
		1 否定 (不満・不安・疑問)	
こどもの安全	1	1 意見・提案・要望	・年々不登校の子供が増えているので、そういう子供達の行き場所を作ってほしい。
自殺予防対策	1	1 意見・提案・要望	・気軽に相談できる場所があると良い。(自殺予防など)
総計	65		